



2021 年度 医学教育共同利用拠点
医学教育開発研究センター
年報

岐阜大学

GIFU UNIVERSITY

はじめに

岐阜大学医学教育開発研究センターは、平成13年に医学教育分野の全国共同利用施設として設立され、今年で21年目となりました。皆様のご支援のもと、医学教育分野で唯一の教育関係共同利用拠点としての責務を遂行しているところでございます。

その活動のうち、第3期事業として医療者教育スターキットの運用を開始しました。これは、医療者教育分野に所属する教員、職員、医療者教育学を学びたい人向けに、eラーニングシステムを利用して医療者教育学の基本を学ぶことができるプログラムです。スターキットの受講を通じて全国の教職員がコミュニケーションをとれる機会も提供しています。

また医療者教育の専門知識を豊富に有する優れた人材育成を目的とした大学院教育においては、令和2年に全国初の医療者教育学修士課程が設立されてから2年が経ち、令和4年3月に1期生が全員修了しました。修了者たちが今後の医療者教育のリーダーとして国内外を問わず活動を広めていく中で、後継者の育成に尽力してくれることを期待しています。

大学院教育のみならず卒前教育にも力を注いでおり、令和2年に設立された東海国立大学機構として名古屋大学と連携を深めながら、新しい学びが提供できるようカリキュラムを改編しております。これに付随して学部教育を支える模擬患者育成、技能学習の場として提供しているスキルスラボの運営も続けてまいります。

以上のように、これまでの活動をさらに前進させることができた当センターですが、コロナ禍においても平時に戻った後にも隔たりのない教育内容を実践していくことも考慮しながら、今後も全国共同利用拠点、大学院教育、卒前教育の3つの柱を中心に精進して参ります。皆様の変わらぬご支援ご鞭撻のほど心よりよろしくお願い申し上げます。

令和4年4月

共同利用拠点

岐阜大学医学教育開発研究センター

センター長 西城 卓也

目次

MEDC 概要	1
MEDC のミッションとビジョン	
職員録・事業報告・来訪者	
業績	
ホームページ・Facebook・Twitter	
拠点活動	32
学びの宙について	
スターターキット	
セミナーとワークショップ	
アソシエイト	
フェローシップ	
機関紙「新しい医学教育の流れ」	
事務研修	
大学院教育	40
岐阜大学の大学院教育	
医療者教育学修士課程	
大学院・博士課程	
卒前教育	43
岐阜大学の卒前教育とMEDC	
PBL	
医学概論	
テュートリアル選択配属	
地域体験実習	
医師・患者関係	
臨床推論	
ライフサイクル	
医療英語・国際交流	
OSCE	
学内活動・学外活動	53
指導医講習会	
ユニットの会	
スキルスラボ	
模擬患者の会	
医学教育IR	
沿革	

MEDC概要

MEDC 概要

—ミッションとビジョン—



拠点活動

学びの宙(そら)と称した各種全国規模の講習会などを定期開催し、全国の医療者の活性化に努めています。

大学院教育

岐阜大学の医学教育学の博士課程と医療者教育学の修士課程で大学院生を指導しています。

卒前教育

岐阜大学や名古屋大学医学部などと連携し、卒前の医学教育を通じた学生支援・各種授業での指導・学内改革に取り組んでいます。

新しい潮流を創る

岐阜大学医学教育開発研究センターは、東海国立大学機構岐阜大学の組織です。2001年に設立され、2001年からは全国共同利用施設として、2010年からは医学教育の共同利用拠点として、文部科学省より認定されるセンターです。我が国の医療系の学習者と指導者のために、

新しい医療者教育を開発・研究・普及させることが、私たちのミッションです。常に改善と改革を意識して、海外のエキスパートとも交流を深めながら、全国のため、岐阜県のため、そして岐阜大学のために、全国の皆様と医療者教育の新しい流れを創り上げて参ります。

職 員 名 簿

教 員

	氏 名	所 属	電 話	備 考
センター長 教 授	西城 卓也	バーチャルスキル部門	058-230-6472	
教 授	藤崎 和彦	バーチャルスキル部門	058-230-6467	
特任教授	丹羽 雅之	テュートリアル部門	058-230-6462	
特任教授	鈴木 康之	テュートリアル部門	058-230-6462	
併任講師	川上 ちひろ	バーチャルスキル部門	058-230-6469	
併任講師	今福 輪太郎	テュートリアル部門	058-230-6469	
助 教	恒川 幸司	テュートリアル部門	058-230-6465	
特任助教	早川 佳穂	バーチャルスキル部門	058-230-6465	

客員教授・准教授

	氏 名	所 属 等
客員教授	中村 真理子	東京慈恵会医科大学 教育センター 教授
客員准教授	清水 郁夫	信州大学医学部 医学教育研修センター 助教

特別協力研究員

氏 名	所 属 等	期 間
増田 多加子	東京薬科大学	H29.2.1～
鬼塚 千絵	九州歯科大学	R 2.12.8～R 3.6.30

非常勤職員

	氏 名	電 話	備 考
事務補佐員	脇坂 琴乃	058-230-6465	育休
事務補佐員	藤井 梨恵子	058-230-6465	
事務補佐員	窪田 恭子	058-230-6465	
派遣スタッフ	井川 智子	058-230-6465	R 3.11.15
教務補佐員	岡田 陽子	058-230-6465	R 4.1.1～

事務職員（医学系研究科・医学部教育企画係）

	氏 名	電 話	備 考
教育企画係長	中田 さおり	058-230-6470	
事務補佐員	福田 ゆう	058-230-6470	
事務補佐員	福井 暁子	058-230-6470	
事務補佐員	西村 幸代	058-230-6470	R 3.7.1～R 4.3.3 1

非常勤講師

氏 名	所 属
阿部 恵子	愛知医科大学看護学部 臨床実践看護学
後藤 忠雄	県北西部地域医療センター 国保白鳥病院
若林 英樹	三重大学医学部 亀山地域医療学講座
市橋 亮一	医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック
鈴木 美砂子	岐阜県総合医療センター
松尾 かずな	名古屋大学医学部附属病院 泌尿器科
永井 博弼	岐阜保健大学
鈴木 一吉	愛知学院大学短期大学部 歯科衛生学科
梶谷 晃明	一丸ファルコス株式会社
James Thomas	慶應義塾大学医学部 医学教育統轄センター
浅田 義和	自治医科大学 医学教育センター
宇野 哲代	ことばの泉作文研究室
寺町 ひとみ	岐阜薬科大学
田口 則宏	鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科
田島 嘉人	平成医療短期大学 リハビリテーション学科
布原 佳奈	岐阜県立看護大学
齊藤 裕之	山口大学医学部附属病院 臨床教育センター
半谷 眞七子	名城大学薬学部薬学科
土屋 静馬	昭和大学 医学教育学講座
藤江 里衣子	藤田医科大学医学部医学科 医療コミュニケーション
小野 香織	早稲田大学 グローバル・ストラテジック・リーダーシップ研究所
小西 由樹子	名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部人材育成・ 情報発信グループ
尾原 晴雄	沖縄県立中部病院
吉村 博	新川崎ふたばクリニック小児科皮膚科

春田 淳志	慶応義塾大学医学部 医学教育統括センター
松山 泰	自治医科大学 医学教育センター
山田 隆司	台東区立台東病院
道信 良子	札幌医科大学 医療人育成センター
八木 街子	自治医科大学 医学教育センター

運営協議会委員

氏 名	所 属 等
西城 卓也	岐阜大学医学教育開発研究センター長 教授
藤崎 和彦	岐阜大学医学教育開発研究センター 教授
大久保 由美子	帝京大学医学教育センター 教授
錦織 宏	名古屋大学大学院医学系研究科総合医学教育センター長 教授
山脇 正永	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 教授
高橋 誠	北海道大学医学研究院医学教育・国際交流推進センター 教授
武田 裕子	順天堂大学医学教育研究室 教授
渡邊 洋子	新潟大学人文社会科学 創成学部 教授
中島 茂	岐阜大学医学部長 教授
吉田 和弘	岐阜大学医学部附属病院長 教授
下畑 享良	岐阜大学医師育成推進センター長 教授
牛越 博昭	岐阜大学地域医療医学センター 教授

運営委員会委員

氏 名	所 属 等
西城 卓也	岐阜大学医学教育開発研究センター長 教授
藤崎 和彦	岐阜大学医学教育開発研究センター 教授
中島 茂	岐阜大学医学部医学科長 教授
竹下 美恵子	岐阜大学医学部看護学科長 教授
吉田 和弘	岐阜大学医学部附属病院長 教授
矢部 大介	岐阜大学医学部附属病院医療情報部長 教授
森田 浩之	岐阜大学大学院医学系研究科 教授
下畑 享良	岐阜大学大学院医学系研究科 教授
桐山 敏	岐阜大学医学系研究科・医学部事務長

令和3年度事業報告

●実施事業関係

①インターネットテュトリアル

フェローシッププログラム

メドギフト2021

セッション1：2021年3月8日～4月11日 オンラインコース

“歩み～あなたは、どこからどうやってここまでできたのか？”

セッション2：2021年4月12日～5月20日 オンラインコース

“学びと導き～学習者と教育者の「いま」をとらえる”

ワークショップ：2021年5月22日～5月23日 ワークショップ参加

“つどい～医療者教育学を表現する”

セッション3：2021年5月24日～6月21日 オンラインコース

“気づきと築き～新たな教育への一歩を踏み出す”

対 象：教員、医療従事者など

期 間：3月8日（月）～6月21日（月）

参加者数：31人

②医学教育セミナーとワークショップ

第79回 e 医学教育セミナーとワークショップ(Web開催)

実施日：5月22日（土）～23日（日）

内 容：・eシナジウム “医療者教育スターターキット”

～教職協働で基本を学ぶ動画コンテンツ公開～

- ・Webinar 学校・教育委員会との教職協働
- ・eWS-1 学生に寄り添う支援とは ～メンタルヘルスに注目して～
- ・eWS-2 オンライン教育（同期・非同期）における教職協働の教育実践
- ・eWS-3 明日からの教育実践を言語化しよう！
ー学びと成長を促す医療教育者を共に目指してー
- ・eWS-4 オンラインFDを考える
- ・eWS-5 研修医の感受性を磨く医療倫理教育一法を知り、ACPを紐解く
- ・eWS-6 評価者が患者役となる臨床推論問題作成
(paper patient以上、模擬患者未満)

参加者数：184人（内 講師19人）

第80回医学教育セミナーとワークショップwith聖隷浜松病院 共催(Web開催)

実施日：11月13日（土）～14日（日）

内 容：・Webinar これであなとも、医学教育系YouTuber！？

- ・WS-1 がん医療における多職種連携の要となるコーディネート能力とは
- ・WS-2 自身の経験から考える医学教育に潜むジェンダー・バイアスと医師のアイデンティティ形成への影響
- ・WS-3 臨床教育現場で、つかえるICT技術の実情を共有しましょう！
(Slack使ってみた。)
- ・WS-4 「やさしい日本語」で外国人患者とコミュニケーション

- ・WS-5 医療者・医療系学生向け社会科学教材(事例集)の開発と活用
- ・WS-6 学びの深まる効果的な振り返りの手法：R2C2を学ぼう
- ・WS-7 研修病院指導医、教育担当者交流会
—卒前医学教育update&教育現場でのお悩み相談会—

参加者数：156人（内 講師47人）

第81回医学教育セミナーとワークショップ(Web開催)

実施日：1月22日（土）～23日（日）

- 内 容：・Webinar 医学教育IR室奮闘記～データで医学教育の何を変えられたのか
- ・WS-1 医療者教育の研究を立案してみよう(第16回医学教育研究技法WS)
 - ・WS-2 全集中！—医療者教育課程でLGBTQ教育を設計・実践しよう
 - ・WS-3 患者安全焦点型医療者教育訓練ファシリテータ養成ワークショップ
 - ・WS-4 Web上で利用できるインタラクティブな教材の利用・作成体験会
 - ・WS-5 第1回医療系IR友の会実践会～卒後データ取得の実践と課題

参加者数：120人（内 講師24人）

③ 医療者教育スターターキット

医療者教育機関で働き始めたばかりの教員、職員、あるいはこれから医療者教育学を学んでいきたい方を対象としたeラーニングプログラムで、医療者教育学の基本を学ぶことができる。

本年度開催の第79回医学教育セミナーとワークショップのeシンポジウム、併催の教務事務職員研修で公開し、参加者から寄せられた意見や感想をもとにブラッシュアップした後、12月より一般公開した。MEDCのHPよりアクセスし受講することが可能で、今年度、91名が修了した。

④ 第22回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修(Web開催)

主 催：国立大学医学部長会議常置委員会
(教育制度・カリキュラムに関する小委員会)
一般社団法人 全国医学部長病院長会議
(医学教育委員会・カリキュラム調査専門委員会)

実施日：5月21日（金）～23日（日）

内 容：医学・歯学教育の改革がこれまでにないスピードで行われている現状を踏まえて、医学・歯学教育に関する現状と教務事務に関する理解を深め、医学部・歯学部の教務事務職員としての資質の向上を図ることにより、各国公立大学における円滑な教務事務の進展に寄与することを目的として、講義、全体・班別討議等を行い、知識と理解を深める。

参加者数：36人

⑤ 客員教授等招聘

海外客員教授：新型コロナウイルス感染症の影響により招聘せず

国内客員教授：中村真理子（客員教授、東京慈恵会医科大学教育センター教授）

- ・医学教育共同利用拠点事業 FD/SD用eラーニング教材を通じた指導「認証評価」

国内客員准教授：清水郁夫（客員准教授、信州大学医学部医学教育研修センター助教）

- ・医療者教育学専攻 講師
教育理論と効果的な教育方法
学習者評価の原理と評価方法

<ul style="list-style-type: none"> ・医学部医学科講義 臨床推論実習（4年生オンライン授業：医療安全と診断学、3時間）
<p>⑥ 初心者向けチューター研修会（FD） ファシリテーションスキルのオンデマンド学習動画</p>
<p>⑦ 医学教育教材の研究・開発</p> <p>テュトリアル部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テュトリアルのオンライン化 ・模擬患者参加型臨床医学教育の研究・開発 <p>バーチャルスキル部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療者教育関連のマルチメディア教材の研究・開発 ・VR・ARを活用した遠隔手技教育
<p>⑧ 学外的対応：各種会議等での講演及び学外へのノウハウ提供</p> <p>大学（病院含む）、学会での各種会議等に招聘され、講演等を実施しノウハウを幅広く提供した。 （遠隔医療教育、多職種連携教育、学習者支援、各種）</p>

●会議開催関係

1. 岐阜大学医学教育開発研究センター運営協議会

	開 催 日
第1回	令和4年2月14日(月)

2. 岐阜大学医学教育開発研究センター運営委員会

	開 催 日
第1回	令和3年6月11日(金)
第2回	令和4年2月24日(木)

●来訪者

なし

業績

著書（和文）

- 1) 藤崎和彦. 社会学と医療. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論. 黒田裕子監修. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2021年: 181-188.
- 2) 今福輪太郎. 第3章 多様な研究事例と応用例. 医療者のための質的研究 はじめの一步!. 片岡竜太・渡邊洋子 編集. 東京, 薬事日報社, 2021年: 93-104.
- 3) 恒川幸司 分担執筆. 第1章現在の医学教育のトレンド 1世界の医学教育の歴史. 医学教育イントロダクション 医療系学生を支えるすべての指導者へ — 電子版付 —. 中野隆史監修, 駒澤伸泰編集. 東京, 日本医事新報社, 2022年: 2-5.
- 4) 恒川幸司 分担執筆. 第1章現在の医学教育のトレンド 2日本の医学教育. 医学教育イントロダクション 医療系学生を支えるすべての指導者へ — 電子版付 —. 中野隆史監修, 駒澤伸泰編集. 東京, 日本医事新報社, 2022年: 6-9.
- 5) 恒川幸司 分担執筆. 第1章現在の医学教育のトレンド 3世界の医学教育の課題. 医学教育イントロダクション 医療系学生を支えるすべての指導者へ — 電子版付 —. 中野隆史監修, 駒澤伸泰編集. 東京, 日本医事新報社, 2022年: 10-13.
- 6) 恒川幸司 分担執筆. 第1章現在の医学教育のトレンド 3日本の医学教育の課題. 医学教育イントロダクション 医療系学生を支えるすべての指導者へ — 電子版付 —. 中野隆史監修, 駒澤伸泰編集. 東京, 日本医事新報社, 2022年: 14-17.
- 7) 恒川幸司・川上ちひろ 分担執筆. 第1章現在の医学教育のトレンド 11キャリア教育. 医学教育イントロダクション 医療系学生を支えるすべての指導者へ — 電子版付 —. 中野隆史監修, 駒澤伸泰編集. 東京, 日本医事新報社, 2022年: 42-45.
- 8) 川上ちひろ・恒川幸司 分担執筆. 第2章医学教育の様々な考え方と理論 5アクティブラーニング. 医学教育イントロダクション 医療系学生を支えるすべての指導者へ — 電子版付 —. 中野隆史監修, 駒澤伸泰編集. 東京, 日本医事新報社, 2022年: 119-122.
- 9) 川上ちひろ 分担執筆. 第2章医学教育の様々な考え方と理論 6成人学習. 医学教育イントロダクション. 医療系学生を支えるすべての指導者へ — 電子版付 —. 中野隆史監修, 駒澤伸泰編集. 東京, 日本医事新報社, 2022年: 123-126.
- 10) 今福輪太郎 分担執筆. 第2章医学教育の様々な考え方と理論 8ミラーのピラミッド. 医学教育イントロダクション. 医療系学生を支えるすべての指導者へ — 電子版付 —. 中野隆史監修, 駒澤伸泰編集. 東京, 日本医事新報社, 2022年: 131-134.
- 11) 今福輪太郎 分担執筆. 第2章医学教育の様々な考え方と理論 9指導に役立つ教育理論①. 医学教育イントロダクション. 医療系学生を支えるすべての指導者へ — 電子版付 —. 中野隆史監修, 駒澤伸泰編集. 東京, 日本医事新報社, 2022年: 135-138.
- 12) 今福輪太郎 分担執筆. 第2章医学教育の様々な考え方と理論 9指導に役立つ教育理論②. 医学教育イントロダクション. 医療系学生を支えるすべての指導者へ — 電子版付 —. 中野隆史監修, 駒澤伸泰編集. 東京, 日本医事新報社, 2022年: 139-142.

- 13) 川上ちひろ 分担執筆. 第 2 章医学教育の様々な考え方と理論 19 学校生活における合理的配慮. 医療系学生を支えるすべての指導者へ — 電子版付 —. 中野隆史監修, 駒澤伸泰編集. 東京, 日本医事新報社, 2022 年 : 175-178.
- 14) 恒川幸司 分担執筆. 第 2 章医学教育の様々な考え方と理論 26 IR 室の意義. 医療系学生を支えるすべての指導者へ — 電子版付 —. 中野隆史監修, 駒澤伸泰編集. 東京, 日本医事新報社, 2022 年 : 204-207.
- 15) 川上ちひろ 分担執筆. 第 3 章良き教育者であるための実践 3 医療者教育とマインドフルネス. 医療系学生を支えるすべての指導者へ — 電子版付 —. 中野隆史監修, 駒澤伸泰編集. 東京, 日本医事新報社, 2022 年 : 216-219.
- 16) 藤崎和彦 分担執筆. 第 17 章 コミュニケーション論. 生命倫理・医事法 第 3 版. 塚田敬義 前田和彦編. 東京, 株式会社医療科学社, 2022 年 : 297-305.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 今福輪太郎. 質的研究を実施するうえで知っておきたい基本理念. 薬学教育 2021, 5 : 1-6.
doi: 10.24489/ jphe.2020-002
- 2) 鈴木 康之. パンデミックを乗り越え、新たな医療人育成へ. 医学教育 2021, 52(1) : 1-4.
doi: 10.11307/ mededjapan.52.1_1
- 3) 石川ひろの, 武田裕子, 大坂和可子, 岡本左和子, 藤崎和彦. 多様性を理解し、支える医療コミュニケーション. 日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌 2021, 12(1) : 19-29.
- 4) 藤崎和彦. 医学生は今昔. 大阪保険医雑誌 2021, 657 : 319-324.
- 5) 鈴木 康之. 【小児科サブスペシャリティ領域の専門医制度のこれから】総論. 小児科 2021, 62(12) : 1493-1497.
doi: 10.18888/ sh.0000001972
- 6) 西城卓也, 今福輪太郎. 脳神経内科領域における医学教育の展望 POST/ WITH コロナ時代を見据えて VOL.2 現代の指導医に求められる「支援者的」臨床教育アプローチ. BRAIN AND NERVE 2021, 73(10) : 1164-1167.
- 7) 今福輪太郎, 西城卓也. 脳神経内科領域における医学教育の展望 POST/ WITH コロナ時代を見据えて VOL.3 臨床教育アプローチを裏付ける教育理論. BRAIN AND NERVE 2021, 73(11) : 1290-1293.
- 8) 西城卓也, 岡崎史子, 大戸敬之, 船越拓, 三好智子, 吉田暁, 芳野純, 廣内大輔. 医療者教育学を学ぶプログラムをデザインする. 医学教育 2021, 52(6) : 497-502.
- 9) 松山 泰, 西屋克己, 藤崎和彦. 医学・医療者教育学を学ぶ我が国のプログラム 2. 医学教育専門家コースワーク. 医学教育 2021, 52(6) : 503-508.
- 10) 早川佳穂, 川上ちひろ, 恒川幸司, 藤崎和彦, 丹羽雅之, 鈴木康之, 今福輪太郎, 西城卓也.” MEDC の学びの宙(そら)” —指導者の成長に合わせた岐阜大学の段階的学習プログラム. 医学教育 2021, 52(6) : 543-550.

- 11) 川上ちひろ, 今福輪太郎, 早川佳穂, 恒川幸司, 牛越博昭, 西城卓也. オンライン授業による地域体験実習の試み～医学科1年生が地域の人と交流し、地域のことを知る～. 岐阜大学教育推進・学生支援機構年報 2022, 7 : 46-56.
- 12) 西城卓也, 堀田亮, 藤江里衣子, 下井俊典, 清水郁夫, 川上ちひろ. 特集「医療者教育における多面的・多角的な学習者支援を考える」その1 困難な状況にある学習者へのアプローチを再考する. 医学教育 2022, 53(1) : 23-28.
- 13) 藤江里衣子, 川上ちひろ, 堀田亮, 西城卓也. 特集「医療者教育における多面的・多角的な学習者支援を考える」その2 「勉強がうまく進まない、試験に合格できない医療系学生」の理解と支援. 医学教育 2022, 53(1) : 29-34.
- 14) 堀田亮, 川上ちひろ, 藤江里衣子, 西城卓也. 特集「医療者教育における多面的・多角的な学習者支援を考える」その3 「臨床実習においてコミュニケーションがうまくできない医療系学生」の理解と支援. 医学教育 2022, 53(1) : 35-41.
- 15) 川上ちひろ, 堀田亮, 藤江里衣子, 西城卓也. 特集「医療者教育における多面的・多角的な学習者支援を考える」その4 「臨床現場で業務がうまくこなせない新人医療者」の理解と支援. 医学教育 2022, 53(1) : 43-48.
- 16) 下井俊典, 川上ちひろ, 西城卓也. 特集「医療者教育における多面的・多角的な学習者支援を考える」その5 「座学はできるのに実技は苦手」は、なぜ起きるのか. 医学教育 2022, 53(1) : 49-56.
- 17) 清水郁夫, 川上ちひろ. 特集「医療者教育における多面的・多角的な学習者支援を考える」その6 学習に影響する外的な問題 ～医療安全教育を例に～. 医学教育 2022, 53(1) : 57-63.

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 堀田亮, 西尾彰泰, 川上ちひろ, 佐々木理恵, 高口僚太郎, 栗木由美子, 今村七菜子, 加納亜紀, 山本眞由美. 大学生はどんなライフスキルを獲得したいのか～岐阜大学での質問紙調査から～. CAMPUS HEALTH 2021, 58(2) : 122-127.
- 2) 堀田亮, 西尾彰泰, 川上ちひろ, 佐々木理恵, 高口僚太郎, 栗木由美子, 今村七菜子, 加納亜紀, 山本眞由美. 半構造化面接調査による大学生が求めるライフスキルや知識の探索的検討. CAMPUS HEALTH 2021, 58(2) : 128-133.
- 3) 川上ちひろ, 堀田亮. 看護教員が感じる発達障害およびその特性がある看護学生の教育支援上の困難と、発達障害のイメージ. CAMPUS HEALTH 2021, 58(2) : 133-138.
- 4) 長谷由紀子, 中岡美由紀, 今福輪太郎, 吉田登志子, 木尾哲朗. 模擬患者参加型研修から歯科衛生士は何を学び、臨床現場でどう活かしたか. 医学教育 2021, 52(4) : 319-324.
- 5) 早川佳穂, 恒川幸司, 浅田義和, 西城卓也. 医療者教育学を学ぶ社会人大学院生による Moodle 上での協働学習の促進を目指して. 日本ムードル協会全国大会発表論文集 2021, 9 : 6-11.

- 6) 三好智子 大戸敬之, 岡崎史子, 舩越拓, 吉田暁, 芳野純, 今福輪太郎, 川上ちひろ, 早川佳穂, 西城卓也. 効果的なフィードバックの伝達および省察・行動変容を促すコーチングをブレンドした面接モデル: R2C2 モデルの紹介と日本語版. 医学教育 2022, 53(1) : 77-82.

原著 (欧文)

- 1) Akiteru Takamura, Rintaro Imafuku. What is the impact of the Rashomon approach in primary care education?: An educational case report of implementing dialogue and improvisation into medical education. BMC Medical Education 2021 May, 21(1) : 1-9. doi: 10.1186/ s12909-021-02570-6
- 2) Masafumi Miyai, Tomohiro Kanayama, Fuminori Hyodo, Masayuki Niwa, Hiroyuki Tomita. Glucose transporter Glut1 controls diffuse invasion phenotype with perineuronal satellitosis in diffuse glioma microenvironment. Neuro-Oncol Adv 2021, 3(1): 1-15. doi: 10.1093/ noajnl/ vdaa150
- 3) Haruo Obara, Takuya Saiki, Rintaro Imafuku, Kazuhiko Fujisaki, Yasuyuki Suzuki. Influence of national culture on mentoring relationship: a qualitative study of Japanese physician-scientists. BMC Medical Education 2021 May 25, 21(1): 300. doi: 10.1186/ s12909-021-02744-2
- 4) Yoko Akamine, Rintaro Imafuku, Takuya Saiki, Jannet Lee-Jayaram, Benjamin W Berg, Yasuyuki Suzuki. Physicians' perceptions of followership in resuscitation in Japan and the USA: a qualitative study. BMJ Open 2021 Oct 21, 11(8): e047860. doi: 10.1136/ bmjopen-2020-047860
- 5) Hui Chen, Shaukat Khan, Betul Celik, Yasuyuki Suzuki, Yasuhiko Ago, Shunji Tomatsu. Activity of daily living in mucopolysaccharidosis IVA patients: Evaluation of therapeutic efficacy. Molecular genetics & genomic medicine 2021 Nov, 9(11): e1806. doi: 10.1002/ mgg3.1806
- 6) Rintaro Imafuku, Takuya Saiki, Kaho Hayakawa, Kazumi Sakashita, Yasuyuki Suzuki. Rewarding journeys: exploring medical students' learning experiences in international electives. Medical education online 2021 Dec 21, 26(1): 1913784. doi: 10.1080/ 10872981.2021.191378
- 7) Rintaro Imafuku, Yukiko Nagatani, Saeko Yamada. Complexities of interprofessional identity formation in dental hygienists: an exploratory case study. BMC Medical Education 2022 Jan, 22. doi: 10.1186/ s12909-021-03082-z
- 8) Takeharu Imai, Yoshihiro Tanaka, Yuji Hatanaka, Tomonari Suetsugu, Yuta Sato, Nobuhisa Matsuhashi, Koji Tsunekawa, Takuya Saiki, Kazuhiro Yoshida. Incorporation of virtual reality in the clinical training of medical students studying esophageal and mediastinal anatomy and surgery. Surgery today 2022 Jan. doi: 10.1007/ s00595-022-02457-z
- 9) Yuta Sato, Nobuhisa Matsuhashi, Yuto Sugie, Masashi Kuno, Shigeru Kiyama, Yoshihiro Tanaka, Naoki Okumura, Takao Takahashi, Takuya Saiki, Kazuhiro Yoshida. Total laparoscopic resection by medial-retroperitoneal approach using virtual navigation: two case reports of primary retroperitoneal schwannoma. World journal of surgical oncology 2022 Jan, 20(1): 3. doi: 10.1186/ s12957-021-02483-0
- 10) Nobuhisa Matsuhashi, Yuta Sato, Jesse Yu Tajima, Shigeru Kiyama, Takao Takahashi, Masashi Kuno, Masahide Endo, Masahiro Fukada, Chika Mizutani, Yoshihisa Tokumaru, Itaru Yasufuku, Tomonari Suetsugu, Yoshihiro Tanaka, Naoki Okumura, Katsutoshi Murase, Takuya Saiki, Kazuhiro Yoshida.

Evaluation of the SYNAPSE VINCENT for lateral lymph node dissection in rectal cancer with robotic surgery: a preliminary report. *World Journal of Surgical Oncology*2022, 20(1):1-5. doi: 10.1186/s12957-022-02532-2

- 11) Mikio Hayashi, Takuya Saiki, Steven L Kanter, Ming-Jung Ho. Leaders' perspectives and actions to manage challenges in medical education presented by the COVID-19 pandemic: a nationwide survey of Japanese medical colleges. *BMC Medical Education*2022, 22(1):1-9. doi:10.1186/s12909-022-03193-1

その他論文

- 1) 恒川幸司. 第 79 回 e 医学教育セミナーとワークショップ. *医学教育* 2021, 52(2) : 166-167.
- 2) 恒川幸司. 医学部入学者選抜の「公正性」に関する検討 教学 IR から見た医学科入学者選抜における公正性. *医学教育* 2021, 52(Suppl) : 45.
- 3) 恒川幸司, 塩入俊樹. 医学教育プログラム評価の理論と実践～教学 IR の組織的な取り組みの視点から～ プログラム評価における岐阜大学医学部医学科の取り組み 来るべき 2 回目の分野別評価受審を見据えて. *医学教育* 2021, 52(Suppl) : 63.
- 4) 恒川幸司, 中島美千世, 塩入俊樹. 高校調査書における評定の妥当性の検証. *医学教育* 2021, 52(Suppl) : 116.
- 5) 西城卓也, 清水郁夫, 浅田義和, 恒川幸司, 早川佳穂, 川上ちひろ, 今福輪太郎, 松山泰. ニッポンの医学教育部門 組織的コンフィギュレーションの視点から. *医学教育* 2021, 52(Suppl) 120.
- 6) 猪田宏美, 恒川幸司, 西城卓也, 千堂年昭. 薬学部実習生において振り返りのスキルを評価する試み. *医学教育* 2021, 52(Suppl) : 125.
- 7) 早川佳穂, 恒川幸司, 塩入俊樹. アクティブラーニングのオンライン化を教員 1 名で円滑に進めるための Tips. *医学教育* 2021, 52(Suppl) : 145.
- 8) 池添開, 塩谷昌紀, 小椋一穂, 塚脇聖, 宮菌昇汰, 恒川幸司, 今福輪太郎. コロナ禍でのオンライン授業の導入によって医学生への生活はどのように変化したか. *医学教育* 2021, 52(Suppl) : 159.
- 9) 恒川幸司. 第 80 回医学教育セミナーとワークショップ with 聖隷浜松病院. *医学教育* 2021, 52(4) : 352-353.
- 10) 西城卓也. 書評 : 指導医のための医学教育学. *医学教育* 2021, 52(4) : 354.
- 11) 西城卓也, 白木育美, 操奈美, 東田和博, 篠田邦大, 高山祐一, 牛越博昭. 研修か研鑽か 第 52 巻 3 号掲載「拘束からの解放・反転授業を活用した完全オンライン型臨床研修指導医講習会」を読んで. *医学教育* 2021, 52(5) : 448-449.
- 12) 西城卓也. 書評 : 格差社会の医療と社会的処方箋 病院の入り口に立てない人を支える SDH (健康の社会的決定要因). *医学教育* 2021, 52(5) : 454.
- 13) 恒川幸司. 第 81 回医学教育セミナーとワークショップ. *医学教育* 2021, 52(5) : 456.
- 14) 駒澤伸泰, 万代康弘, 藤原佐智, 今福輪太郎, 浅田義和. 多職種連携教育におけるシミュレーション教育の可能性を探る. *日本シミュレーション医療教育学会雑誌* 2021, 9 : 99-103.
- 15) 堀田亮, 川上ちひろ, 織田万美子, 松本寿弥. いこまいセミナーの実践報告 5 : オンデマンド配信

と2大学共同のオンラインプログラムへの発展. 名古屋大学学生支援本部紀要 2021, 1: 2-9.

- 16) 川上ちひろ, 田島嘉人, 中嶋さつき, 栗田尚佳, 寺町ひとみ. 多施設で行った遠隔授業での多職種連携医療教育の実践報告. 地域志向学研究 2021, 5: 56-64.
- 17) 堀田亮, 近藤武夫, 松清あゆみ, 高橋桐子, 川上ちひろ, 西尾彰泰, 山本眞由美. 障害学生の就労支援における産官学連携体制の構築「障害学生支援と就労移行に関する情報交換会 in 岐阜」の開催報告. 地域志向学研究 2021, 5: 65-72.
- 18) 川上ちひろ. 発達障害など、対応が難しいと感じる学習者への教育・支援 第4回発達障害とは(その3) 学校生活編(続). 看護教育 2021, 62(4): 376-379.
- 19) 川上ちひろ. 発達障害など、対応が難しいと感じる学習者への教育・支援 第5回発達障害とは(その4) 臨地実習編. 看護教育 2021, 62(5): 482-485.
- 20) 川上ちひろ. 発達障害など、対応が難しいと感じる学習者への教育・支援 第6回発達障害とは(その5) 臨地実習編(続). 看護教育 2021, 62(6): 574-577.
- 21) 川上ちひろ. 発達障害など、対応が難しいと感じる学習者への教育・支援 第7回発達障害とは(その6) 卒業・就職編. 看護教育 2021, 62(7): 672-675.
- 22) 川上ちひろ. 発達障害など、対応が難しいと感じる学習者への教育・支援 第8回合理的配慮とは(その1) 基本的な理解編. 看護教育 2021, 62(8): 818-821.
- 23) 川上ちひろ. 発達障害など、対応が難しいと感じる学習者への教育・支援 第9回合理的配慮とは(その2) 学校生活編. 看護教育 2021, 62(9): 906-909.
- 24) 川上ちひろ. 発達障害など、対応が難しいと感じる学習者への教育・支援 第10回合理的配慮とは(その3) 臨地実習編. 看護教育 2021, 62(10): 986-989.
- 25) 川上ちひろ. 発達障害など、対応が難しいと感じる学習者への教育・支援 第11回学内外での支援の連携体制について. 看護教育 2021, 62(11): 1072-1075.
- 26) 川上ちひろ. 発達障害など、対応が難しいと感じる学習者への教育・支援 第12回対応が難しい学習者とは. 看護教育 2021, 62(12): 1168-1171.
- 27) 川上ちひろ. 新人看護師とプリセプターの視点から考える よりよい新人看護師教育 誰もが働きやすい職場を目指すために 第3回周囲が考える常識との間にギャップがあった3年目の看護師の事例. 看護管理 2021, 31(4): 330-333.
- 28) 川上ちひろ. 新人看護師とプリセプターの視点から考える よりよい新人看護師教育 誰もが働きやすい職場を目指すために 第4回お互いに「かみ合わず、うまくできなかった」という振り返りをした事例. 看護管理 2021, 31(5): 574-577.
- 29) 川上ちひろ. 新人看護師とプリセプターの視点から考える よりよい新人看護師教育 誰もが働きやすい職場を目指すために 第5回自己開示ができず、本人も周囲も疲弊した1年目の看護師の事例. 看護管理 2021, 31(6): 516-519.
- 30) 川上ちひろ. 新人看護師とプリセプターの視点から考える よりよい新人看護師教育 誰もが働きやすい職場を目指すために 第6回落ち着きがなく、テンションが上がりすぎる新人看護師とプリセプターが課題を共有し良好な関係を築いた事例. 看護管理 2021, 31(7): 612-615.
- 31) 川上ちひろ. 新人看護師とプリセプターの視点から考える よりよい新人看護師教育 誰もが働きやすい職場を目指すために 第7回自施設における自分の将来を悲観し、退職の決意に至った新人

看護師の事例. 看護管理 2021, 31(8) : 906-909.

- 32) 川上ちひろ. 新人看護師とプリセプターの視点から考える よりよい新人看護師教育 誰もが働きやすい職場を目指すために 第8回自閉スペクトラム症(ASD)の可能性のある新人看護師の事例. 看護管理 2021, 31(9) : 826-829.
- 33) 川上ちひろ. 新人看護師とプリセプターの視点から考える よりよい新人看護師教育 誰もが働きやすい職場を目指すために 第9回うまくできない原因を外的要因に求めて、周囲とギャップが生じた新人看護師の事例. 看護管理 2021, 31(10) : 942-945.
- 34) 川上ちひろ. 新人看護師とプリセプターの視点から考える よりよい新人看護師教育 誰もが働きやすい職場を目指すために 第10回新人看護師とプリセプターが信頼を育み、双方が成長を感じられた事例. 看護管理 2021, 31(11) : 1036-1039.
- 35) 川上ちひろ. 新人看護師とプリセプターの視点から考える よりよい新人看護師教育 誰もが働きやすい職場を目指すために 第11回新人看護師とプリセプターが共に成長するために. 看護管理 2021, 31(12) : 1120-1124.
- 36) 川上ちひろ. リハビリテーション医療領域におけるオンラインシステムを用いた新人教育. 総合リハビリテーション 2021, 49(6) : 547-553.
- 37) 早川佳穂. アナウンスメント 第82回医学教育セミナーとワークショップ. 医学教育 2021, 53(1) : 126.
- 38) 藤崎和彦、早川佳穂. e シンポジウム : “医療者教育スターターキット” ～教職協働で基本を学ぶ動画コンテンツ公開！～. 新しい医学教育の流れ 2021, 21(2) : 69-70.
- 39) 川上ちひろ, 堀田亮. eWS-1 : 学生に寄り添う支援とは ～メンタルヘルスに注目して～. 新しい医学教育の流れ 2021, 21(2) : 73-75.
- 40) 早川佳穂, 今福輪太郎, 川上ちひろ, 恒川幸司, 西城卓也, 石木学, 石黒一美. eWS-3 : 明日からの教育実践を言語化しよう！ -学びと成長を促す医療教育者を共に目指して-. 新しい医学教育の流れ 2021, 21(2) : 79-81.
- 41) 渡邊卓哉, 西城卓也. Webinar : これであなたも、医学教育系 YouTuber!?. 新しい医学教育の流れ 2021, 21(3) : 119-120.
- 42) 武田裕子, 新居みどり, 石川ひろの, 今福輪太郎, 岩田一成. WS-4 : 「やさしい日本語」で外国人患者とコミュニケーション. 新しい医学教育の流れ 2021, 21(3) : 130-133.
- 43) 渡邊卓哉, 本間陽一郎, 早川佳穂, 石丸裕康, 伊藤彰一, 尾原晴雄, 高橋弘明, 山田彩乃. WS-7 : 研修病院指導医、教育担当者交流会 -卒前医学教育 update &教育現場でのお悩み相談会-. 新しい医学教育の流れ 2021, 21(3) : 141-143.

研究費

- 1) 研究代表者：鈴木康之，分担研究者：武田裕子・西城卓也・恒川幸司；日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 B:我々は将来の医療を誰に託すのか？:医学部入学者の社会的背景の解明. 2020-2022年度；9,000千円（3,800：2,600：2,600千円）
- 2) 分担研究者：鈴木康之；難治性疾患等政策研究事業 ライソゾーム病、ペルオキシソーム病（副腎

白質ジストロフィーを含む)における良質かつ適切な医療の実現に向けた体制の構築とその実装に関する研究(主任:奥山虎之)。2020-2022年度;1,200千円(400:400:400千円)

- 3) 研究代表者:今福輪太郎;日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 C:外国人患者と医療者の調整行動に着目した医療のための「やさしい日本語」教育の開発。2020-2024年度;4,290千円(1,300:1,170:910:910千円)
- 4) 研究代表者:西城卓也;日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 B:医学教育・研修部門の機能、及び専任スタッフの役割とアイデンティティに関する研究。2021-2022年度;7,410千円(2,990:2,600千円)
- 5) 研究代表者:川上ちひろ;科学研究費助成事業 若手研究。対応に困る医療系学生や若手医療者への教育的対応法を学ぶ学習プログラムの構築。2018-2021年度;4,160千円(1,300:1,690:620:520千円)
- 6) 分担研究者:川上ちひろ;岐阜県発達障害学生就労支援研究会(堀田亮、川上ちひろ、他)。発達障害のある学生の修学・就職支援方策の検討、研究。技術交流研究会協力会助成費。2019-2021年度。
- 7) 分担研究者:恒川幸司, 研究代表者:中島美千世;科学研究費補助金 挑戦的研究 萌芽:高大接続に基づくベストミックス評価選抜法の開発:来るべき大学入試改革を見据えて。2019-2021年度;1,500千円(1,000:250:250千円)

学会等の開催

西城卓也

- 1) 第21回岐阜県医師育成・確保コンソーシアム臨床研修指導医講習会:講師(2021.6, 岐阜)
- 2) 第22回岐阜県医師育成・確保コンソーシアム臨床研修指導医講習会:講師(2021.12, 岐阜)

学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

西城卓也

- 1) 座長; COVID19感染予防に配慮した医療者教育。第25回日本遠隔医療学会(2021.10.9, 岐阜)
- 2) 招待シンポジスト;医療従事者の協働するチカラを育む組織内の推進力を促進させる教育セオリーのエッセンス。第64回日本感染症学会中日本地方会学術集会(2021.11.5, 岐阜)
- 3) 招待シンポジスト;医療者教育理論のレンズから見る在宅医療の効果的指導のノウハウとは?。第3回日本在宅医療連合学会(2021.11.28, オンライン)

藤崎和彦

- 1) 招待講演;医療現場におけるコミュニケーション力について-医療安全と医療の質の向上のために-。令和3年度第1回愛知県医師会医療安全支援センター講演会(2021.8.7, 名古屋)
- 2) 招待講演;対象者の行動変容につなげる医療コミュニケーション。第16回日本訪問看護認定看護師協議会東海北陸ブロック会(2021.8.21, オンライン)

- 3) 招待講演;作業療法における医療者教育の重要性. 第 35 回大阪府作業療法学会教育講演 (2021.12.4, オンライン)

丹羽雅之

- 1) 座長; ニューノーマル時代の医療者教育. 第 46 回教育システム情報学会全国大会 (2021.9.1 - 3, オンライン)
- 2) 座長; 特別講演 デジタル化の最新動向と DX 推進に関する政策展開～医療系教育系の事例も交えて～. 第 16 回医療系 E ラーニング全国交流会年次大会 (2021.12.18-19, オンライン)

学会・研究会 一般演題

- 1) 堀田亮, 川上ちひろ, 織田万美子, 松本寿弥: 共同演者. 2 大学協働のオンライングループセミナーの実践 (1) 大学間連携の意義と今後の発展可能性. 日本学生相談学会第 39 回大会 筑波大学 (2021.5.15, オンライン)
- 2) 織田万美子, 松本寿弥, 堀田亮, 川上ちひろ, 鈴木健一, 杉岡正典, 山内星子, 松本真理子: 共同演者. 2 大学協働のオンライングループセミナーの実践 (2) 一次支援強化の取り組みと広報手段の工夫. 日本学生相談学会第 39 回大会 筑波大学 (2021.5.15, オンライン)
- 3) 榎谷晃明, 山田修平, 水谷健一, 丹羽雅之. 細胞表面における微小環境へのプロテオグリカンの適用は軟骨分化 と維持に寄与する. 第 53 回日本結合組織学会学術大会 (2021.6.26, オンライン)
- 4) Rintaro Imafuku, Yukiko Nagatani. Becoming interprofessional: Exploring Japanese dental hygienists' identity formation through interaction in healthcare. 19th International and Interdisciplinary Conference on Communication, Medicine, & Ethics (2021. 6. 28-30, on-line).
- 5) 瀬戸山陽子, 川上ちひろ, 青木昭子, 原田芳巳: 共同演者. ワークショップ 10 障害や病いを持つ医療系学生の語りから教育的支援や合理的配慮について考える. 第 53 回日本医学教育学会大会 自治医科大学 (2021.7.29 - 8.1, オンライン)
- 6) 早川佳穂, 恒川幸司, 塩入俊樹. アクティブラーニングのオンライン化を教員 1 名で円滑に進めるための Tips. 第 53 回医学教育学会大会 (2021.7.29-8.1, オンライン)
- 7) 恒川幸司, 中村真理子, 岡田聡志, 浅田義和, 菰田孝行, 椎橋実智男: 第 3 回医療系 IR 友の会ミーティング～次なる一歩へ向かって. 第 53 回医学教育学会大会 プレカンファレンスワークショップ (2021.7.29, オンライン)
- 8) 恒川幸司, 塩入俊樹. プログラム評価における岐阜大学医学部医学科の取り組み～来るべき 2 回目の分野別評価受審を見据えて. 第 53 回医学教育学会大会シンポジウム「医学教育プログラム評価の理論と実践 ～教学 IR の組織的な取り組みの視点から～」(2021.7.30 - 31, オンライン)
- 9) 恒川幸司. 教学 IR から見た医学科入学者選抜における公正性. 第 53 回医学教育学会大会 シンポジウム「医学部入学者選抜の「公正性」に関する検討」(2021.7.30 - 31, オンライン)
- 10) 早川佳穂. オンライン実習に参加した市民はオンライン医療コミュニケーションに対してどのように認識したか. 第 25 回日本遠隔医療学会学術大会 (2021.10.9, 岐阜)

- 11) 榎谷晃明, 水谷健一, 山田修平, 丹羽雅之. コンドロイチン硫酸プロテオグリカンのバイオマテリアルとしての有用性. 第 40 回日本糖質学会年会 (2021.10.27-29, 鹿児島)
- 12) 西城卓也. 医療従事者の協働するチカラを育む組織内の推進力を促進させる教育セオリーのエッセンス. 第 64 回日本感染症学会中日本地方会学術集会 (2021. 11. 5, 岐阜)
- 13) 榎谷晃明, 水谷健一, 山田修平, 丹羽雅之. コンドロイチン硫酸プロテオグリカンの優れたバイオマテリアルとしての機能. 第 43 回日本バイオマテリアル学会 (2021.11.28-29, 名古屋)
- 14) 恒川幸司. 医学教育 IR 室奮闘記～データで医学教育の何を変えられたのか; 講師. 第 81 回医学教育セミナーとワークショップ (2022.1.22, オンライン)
- 15) 恒川幸司, 中村真理子, 岡田聡志, 浅田義和, 菰田孝行, 柿崎真沙子, 佐藤麻紀, 岡田明子, 椎橋実智男; 講師. 第 1 回医療系 IR 友の会実践会～卒後データ取得の実践と課題. 第 81 回医学教育セミナーとワークショップ (2022.1.23, オンライン)

他大学 FD・その他

川上ちひろ:

- 1) 岐阜大学医学部附属病院看護部 教育担当者向け研修会「みんなで取り組もう新人教育」: 新人看護師が一人立ちするまでの道のりをサポートする; 講師 2021.5.21.
- 2) 全国トラブルシューター教育ネットワーク 2021 (第 1 回) 全国 TS 教育ネットワーク: 川上ちひろさんと本気で考える! 発達障害のある女の子・女性の支援★性支援・多職種連携・エトセトラ; 講師 2021.6.5.
- 3) 株式会社金子書房 金子総合研究所オンラインセミナー: 発達障害のある若者の「性」にまつわるエトセトラ; 講師 2021.6.26.
- 4) 静岡県立御殿場特別支援学校 令和 3 年度性教育学習会: 性と関係性について; 講師 2021.8.2.
- 5) 岡山県立岡山南支援学校 公開講座: 座発達障害のある子どもたちの性の理解と支援～関係をつくる・きずく・つなぐ～; 講師 2021.8.4.
- 6) 特定非営利活動法人神経発達症研究推進機構 ASDPROJECT 共催シンポジウム 自閉スペクトラム症のある女性について～男性とどのように違うのか～: 発達障害のある女の子・女性の理解～からだ・こころ・関係の視点から～; 講師 2021.8.7.
- 7) 三重大学医学部附属病院 総合診療部三重総診クリニック指導医の会: 応が難しい医学生の理解と支援; 講師 2021.8.10.
- 8) 公益財団法人岐阜県看護協会 令和 3 年度新人看護職員教育事業 (岐阜県委託事業): 対応が難しい新人看護師との関わり; 講師 2021.8.16.
- 9) 公益財団法人岐阜県看護協会 令和 3 年度看護研修会: 価値観の違うスタッフ、患者・家族とのコミュニケーション法～スタッフ編～; 講師 2021.8.20.
- 10) 長野県安曇養護学校 あづようセミナー: 発達障がいのある子の思春期の支援; 講師 2021.8.21.
- 11) 静岡県立大学看護学部 令和 3 年度看護学部 FD 研修会: 医療系大学における障害学修支援上の合理的配慮と教育的配慮; 講師 2021.9.22.
- 12) 一宮市障害者自立支援協議会 放課後等デイサービス事業所連絡会: 障害のある児の性教育について

て；講師 2021.10.15.

- 13) 一宮市障害者自立支援協議会 相談支援連絡会（学習会）：障害のある児の性教育について、性犯罪をした障害のある方の支援について；講師 2021.11.19.
- 14) 日本赤十字看護大学 地域連携・フロンティアセンター 2021 年度実習指導者研修会：発達障害及びその特性を持つ看護学生の理解と実習指導；講師 2021.11.29.
- 15) 社会福祉法人共生福祉会なごや職業開拓校 家族講習会：異性とのかかわり方について（女性向け）；講師 2021.12.15.
- 16) 公益財団法人兵庫県看護協会神戸中部支部 令和 3 年度兵庫県看護協会神戸中部支部研修：発達障害のある看護師への対応；講師 2021.12.18.
- 17) 岐阜県教育委員会体育健康課 令和 3 年度性に関する指導 講師派遣事業（特別支援学校高等部）：性に関する講話（岐阜県立大垣特別支援学校職員対象）；講師 2021.12.22.
- 18) 浜松市健康福祉部健康増進課 研修会（発達障害・知的障害児等に関わる支援者対象）：発達障害の特性を踏まえた性の教育・相談支援のポイント；講師 2021.12.24.
- 19) 岐阜県教育委員会体育健康課 令和 3 年度性に関する指導 講師派遣事業（特別支援学校高等部）：性に関する講話（岐阜県立東濃特別支援学校生徒対象）；講師 2022.1.13.
- 20) 香川県発達障害者支援センター「アルプスカガワ」 発達障害者地域支援体制強化事業一般公開講座：発達障害のある子どもの性と関係性の教育；講師 2022.1.29.
- 21) 岐阜県教育委員会体育健康課 令和 3 年度性に関する指導 講師派遣事業（特別支援学校高等部）：性に関する講話（岐阜県立本巣特別支援学校生徒対象）；講師 2022.1.31.
- 22) 岐阜県教育委員会体育健康課 令和 3 年度性に関する指導 講師派遣事業（特別支援学校高等部）：性に関する講話（岐阜県立飛騨吉城特別支援学校生徒対象）；講師 2022.2.2.
- 23) 一般社団法人日本看護学校協議会中四国ブロック 中四国ブロック研修会：対応が難しいと感じる学習者への教育・支援；講師 2022.2.5.
- 24) 国立障害者リハビリテーションセンター 令和 3 年度発達障害地域生活・就労支援者研修会：成人期の性と関係性；講師 2022.2.8.
- 25) 一宮市障害者自立支援協議会 放課後等デイサービス事業所連絡会：障害のある児の性教育について（グループワーク）；講師 2022.2.18.
- 26) 信州子どものこころ診療研究会 第 11 回信州子どものこころ診療研究会：発達障害のある女の子・女性の問題と支援 ～身体・心・関係の視点から～；講師 2022.2.19.

学術賞等の受賞

なし

学術雑誌

丹羽雅之，今福輪太郎，早川佳穂：

- 1) 新しい医学教育の流れ；編集委員（～現在）

西城卓也：

- 1) 日本医学教育学会 編集委員会；副編集長(～現在)
- 2) KOREAN JOURNAL OF MEDICAL EDUCATION; EDITORIAL BOARD (2017年～現在)

鈴木康之：

- 1) 日本シミュレーション医療教育学会；編集委員(2013年～現在)

丹羽雅之：

- 1) 教育システム情報学会誌；編集委員(～2017年9月)
- 2) BIOMOLECULES; EDITORIAL BOARD (2020年～現在)

今福輪太郎：

- 1) 日本シミュレーション医療教育学会；編集委員(2013年～現在)
- 2) BMC Medical Education; Associate Editor(2015年～現在)
- 3) 日本医学教育学会 編集委員会；編集委員(2019年～現在)

学術学会の役員、委員等

西城卓也：

- 1) 日本医学教育学会：代議員，理事，医学教育専門家育成検討委員会，編集委員会，国際関係委員会，教育研究開発委員会，若手による医学教育・キャリア支援部会 部会長
- 2) 日本プライマリ・ケア連合学会：中部地区代議員
- 3) International Conference on Faculty Development in the Health Professions: Steering Committee member

藤崎和彦：

- 1) 日本医学教育学会：理事，評議員，医学教育専門家・業績FD委員会 委員長，学習方略委員会 副委員長，教材開発・SP委員会 副委員長，医学教育専門拡大WG委員会 委員長
- 2) 医療コミュニケーション研究会：会長
- 3) RIAS研究会日本支部：代表
- 4) 日本ヘルスコミュニケーション学会：理事，プログラム委員
- 5) 日本医療福祉政策学会：幹事
- 6) 日本保健医療行動科学会：顧問
- 7) 大学イノベーション日本：幹事
- 8) 日本医療経済学会：理事

鈴木康之：

- 1) 日本医学教育学会：理事長，監事，評議員，国際関係委員会，教育研究開発委員会，専門家制度委

員会

- 2) 日本小児科学会：代議員，試験運営委員会，生涯教育・専門医育成委員会，専門医制度運営委員会
- 3) 日本先天代謝異常学会：評議員，幹事
- 4) 日本人類遺伝学会：評議員
- 5) 東海臨床遺伝・代謝懇話会：世話人
- 6) 日本シミュレーション医療教育学会：理事，評議員
- 7) 日本ムコ多糖症研究会：代表幹事
- 8) 日本小児医学教育研究会 幹事
- 9) 日本小児医療政策研究会 幹事

丹羽雅之：

- 1) 日本 M&S 医学教育研究会：幹事，評議員
- 2) 日本炎症・再生医学会：功労会員
- 3) 日本薬理学会：評議員
- 4) 日本医学教育学会：評議員，広報・情報基盤委員会，情報基盤委員会，特別領域情報基盤開発委員会
- 5) 日本臨床薬理学会：評議員，功労会員
- 6) 医療系 e ラーニング全国交流会：副会長
- 7) 日本シミュレーション医療教育学会：幹事，評議員
- 8) 教育システム情報学会：人材育成委員会医療・看護部会，編集委員
- 9) 東海 7 大学医学教育連絡協議会：幹事

川上ちひろ：

- 1) 日本医学教育学会：代議員，準備教育・行動科学教育委員会

今福輪太郎：

- 1) 日本シミュレーション医療教育学会：評議員、理事（編集担当）
- 2) 日本医学教育学会 研究推進委員会：委員
- 3) 日本歯科医学教育学会：代議員

恒川幸司：

- 1) 医学系 IR 友の会：代表世話人
- 2) 日本医学教育学会：教育プログラム評価推進委員会 委員，入学者選抜部会 部会員

早川佳穂：

- 1) 医療系 e ラーニング全国交流会：世話人

社会活動

西城卓也：

- 1) NPO 法人卒後臨床研修評価機構 サーベイヤー(～現在)
- 2) 京都大学医学部 客員研究員(～現在)
- 3) 医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック 非常勤医師(～現在)
- 4) 清流の国岐阜総合診療専門研修プログラム管理委員会委員(2017年度～現在)
- 5) 愛知医科大学医学部 カリキュラム評価委員会 外部委員 (2019年4月～現在)
- 6) 名古屋大学医学部 カリキュラム委員会 外部委員 (2020年4月～2022年3月)

藤崎和彦：

- 1) 医療系大学間共用試験実施評価機構 医学系 OSCE 実施小委員会 模擬患者標準化専門部会 委員 (～現在)
- 2) 大和郡山市 すこやか 21 計画推進委員会 アドバイザー (～現在)
- 3) 藤田医科大学 客員教授 (～現在)
- 4) 兵庫医科大学 特別招聘教授 (～現在)
- 5) 京都府立医科大学 客員講師 (～現在)
- 6) 九州歯科大学 非常勤講師 (～現在)
- 7) 獨協医科大学「デジタル活用教育高度化事業」外部評価委員 (2021年6月～現在)

鈴木康之：

- 1) 日本ムコ多糖症親の会 顧問(～現在)
- 2) ALD 親の会 顧問(～現在)
- 3) 国立大学医学部長会議 教育制度・カリキュラムに関する小委員会 委員(2013年度～2020年度)
- 4) 国立大学医学部長会議 臨床教育合同会議 委員(2014年度～現在)
- 5) 日本医学教育評価機構評価委員会 委員, 理事(2015年度～)

丹羽雅之：

- 1) 岐阜聖徳学園大学看護学部 非常勤講師(～現在)
- 2) 岐阜県立衛生専門学校看護学科 非常勤講師(～現在)
- 3) 岐阜県立衛生専門学校助産学科 非常勤講師(～現在)

川上ちひろ：

- 1) 社会医療法人聖泉会聖十字病院 倫理審査委員会 委員 (2018年～現在)
- 2) 岐阜県立衛生専門学校歯科技工士学科 非常勤講師 (2019年～現在)
- 3) 訪問看護ステーションサーラ 非常勤看護師 (保健師) (2007年～現在)

今福輪太郎：

- 1) 大垣北高等学校スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業 担当教員（2014年～2019年）
- 2) 大垣北高等学校地域共創フラッグシップハイスクール（FRH）事業 担当教員（2019年～現在）

恒川幸司：

- 1) 大垣北高等学校スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業 担当教員（2014年～2019年）
- 2) 大垣北高等学校地域共創フラッグシップハイスクール（FRH）事業 担当教員（2019年～現在）
- 3) 国際医学技術専門学校 非常勤講師（～現在）
- 4) あいち福祉医療専門学校 非常勤講師（～現在）
- 5) 医療法人かがやき倫理審査委員会 委員（2017年～現在）

早川佳穂：

- 1) 医療系大学間共用試験実施評価機構 医学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験 標準模擬患者養成・管理小委員会 委員（～現在）
- 2) 朝日大学歯科衛生士専門学校 非常勤講師（2021年10月～現在）
- 3) 東洋学園国際医学技術専門学校 非常勤講師（2021年4月～現在）

専門医等

西城卓也：

- 1) 厚生労働省臨床研修指導医
- 2) プライマリ・ケア連合学会認定医・認定指導医
- 3) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

藤崎和彦：

- 1) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

鈴木康之：

- 1) 日本小児科学会専門医
- 2) 厚生労働省臨床研修指導医
- 3) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

丹羽雅之：

- 1) 日本臨床薬理学会認定薬剤師
- 2) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

川上ちひろ：

- 1) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

報道

- 1) 岐阜大学 MEDC 医学教育セミナーとワークショップ：文教ニュース(2021.6.14)
- 2) 救命現場画面越しに見学：中日新聞(2021.6.18)
- 3) 医療の道、学びは止めない：岐阜新聞(2021.6.18)
- 4) 岐阜大学病院バーチャル見学：NHK 岐阜(2021.6.18)，CCN(2021.6.20)，ぎふチャン(2021.6.22)
- 5) 医学教育セミナーとワークショップを開催：文教速報(2021.6.18, 6.21)
- 6) 専門職の発達障害者現場で必要な支援は：中日新聞(2021.10.4)
- 7) 岐阜大、ウェブセミナー専門職養成における発達障害者支援：文教ニュース(2021.10.18)
- 8) 医学部学生が多職種連携について考える講義：NHK 岐阜(2021.10.27)
- 9) 「専門職養成発達障害者支援」で Web セミナー：文教速報(2021.10.20)
- 10) 訪問診療の経験市橋医師が語る：中日新聞(2021.10.28)
- 11) 「社会全体が病院に」：岐阜新聞(2021.11.9)
- 12) 医学教育セミナーとワークショップ 岐阜大学 MEDC が聖隷浜松病院と共催：文教速報(2021.12.10)
- 13) 岐阜大、聖隷浜松病院と医学教育セミナーと WS：文教ニュース(2021.12.13)
- 14) 知的障害の若者と“性教育”性被害やトラブルを防ぐ取り組み進む：CBC テレビ(2022.3.1)
- 15) 岐阜大学 MEDC 第 81 回医学教育セミナー：文教ニュース(2022.2.14)
- 16) 岐阜大学医学教育開発研究センター 医学教育セミナーとワークショップを開催：文教速報(2022.2.18)
- 16) MEDC Taaalk：メドトーク 岐阜大医学教育開発研究センター「学習者支援」でウェビナーを開催：文教速報(2022.3.30)

岐阜大学 MEDC

医学教育セミナーとワークショップ

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は5月22日と23日の2日間にわたり、第79回医学教育セミナーとワークショップをオンラインで開催した。総勢184名の参加者・講師により、公募を



講演する平澤教授

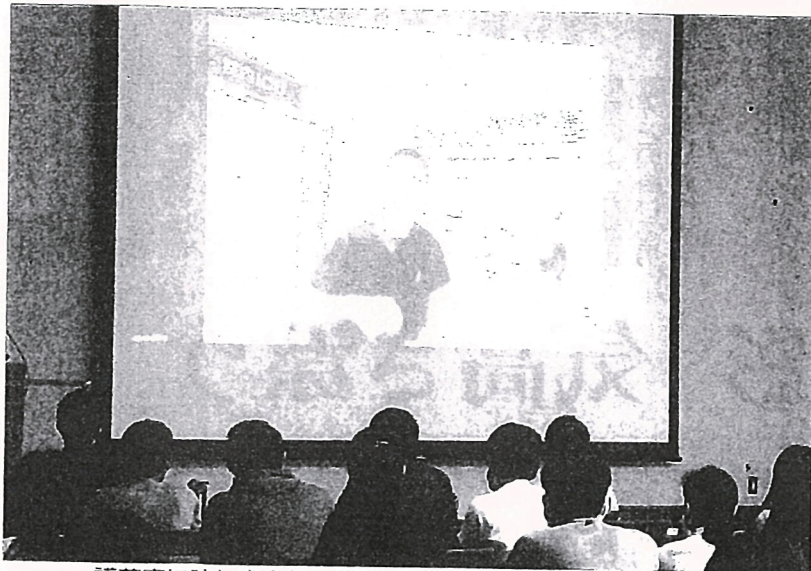
めた計6つのワークショップ、シンポジウム、ウェビナーを実施した。なお今回も、教職協働推進の一環として第22回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修を5月21日～23日に併催し、27大学から36名が参加した。

ワークショップでは、「学生に寄り添う支援」「教職協働によるオンライン教育」「深い学びを促すための教育実践」など、多彩なテーマについて活発な論議がなされた。中でも「学生に寄り添う支援」とは「メンタルヘルスに注目して」のテーマでは、長引くコロナ禍での、オンライン授業中心の大学生活における学生の心理状態の確認と対処方法について学び、学生対応が必要とされる具体的な方策

また、ウェビナーでは、同大教職大学院の平澤紀子教授が「学校・教育委員会との教職協働」と題し、教職大学院としての役割を果たすべく、高度な専門職の養成と特にコロナ禍における学校・教育委員会・大学教員の三者が協働する必要性などについて講演した。

なお、シンポジウムでは、拠点第3期事業において、医療者教育スターターキットとして開発した動画教材を公開し、活発な意見交換を行った。MEDCでは、医学教育共同利用拠点として日本の医療者教育の普及・開発・向上に寄与すべく、年3回「医学教育セミナーとワークショップ」を開催しており、次回は11月13日～14日の2日間、聖隷浜松病院で開催予定。

救命現場 画面越し見学



講義室に映し出された熊田医師に案内される形で、オンラインで施設内を見学する学生ら＝岐阜市柳戸の岐阜大で

岐阜大医学部医学科の一年生約百十人が十七日、本格的に医療の学習を進める前に、同大病院の高次救命治療センター（岐阜市柳戸）をオンラインで見学した。現場の姿を知る講義の一環で、本来は病院や消防署など約十カ所を見学するが、新型コロナウイルスの影響で実習は中止。学生らは画面を通じて医療現場で働く人の声を聞き、医師として将来働く意識を高めた。

（形田怜央菜）

「ここからはレッドゾーン ません」「今からドクターで、限られた人しか入れ カーに医師と看護師が乗り

込み、待機のため消防署に向かいます」

センターの熊田恵介医師の案内で、院内での人の動きや、使われる機器などが、学生らがいる講義室に映し出されていく。ドクターヘリの操縦士、医療機器を扱う臨床工学技士など、医師や看護師だけでなくさまざまな職種の人々が働く姿が紹介された。

見学後、学生からは「コロナの病棟に入っていた医師は、あの後、何をやるのか」「この時間に消防署で待機する意味は」など、現場の一端を見たからこそ浮かぶ質問も挙がった。

コロナ禍でも何とか現場を見てもらおうと、同大では県内の医院、高次救命治療センターを見学する二回

岐阜大医学部生 将来へ意識高める

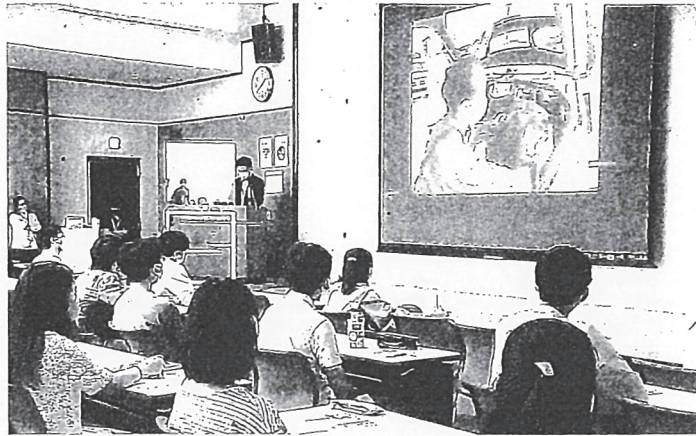
のオンライン実習を初めて企画した。少ない回数でも深い学びを得ようと、学生らは事前に質問を練るなど準備。この日はオンライン実習の二回目となった。

熊田医師は「今学んでいるすぐ隣の建物で、いろんなことが起こっていることを感じながら勉強して」と激励した。救急に関心があるという山本大輝さん（20）は「ドラマなどでは見ても、実際の現場を見ることは少ない」と見学できたことに感謝し、「医師が一人で頑張ればいいわけではなく、さまざまな立場の人と支え合っていることを感じました」と話した。



医療の道、学びは止めない

岐阜大、中継で救命実習



学生が医療現場からの映像に見入ったオンライン実習
＝岐阜市柳戸、岐阜大医学部

岐阜市柳戸の岐阜大医学部で17日、ビデオ会議システム「Zoom(ズーム)」を活用したオンライン実習が行われ、1年生約110人が医療現場からの映像に見入った。企画した教員は、「コロナ禍で現場実習はかなわないが、情報通信技術(ICT)の活用で、より深い学びにつながっている」と話す。

医療や介護、福祉など約10施設で行う1年生の必須科目「初期体験実習」の代替として企画。講義室と同一の岐阜大病院高次救命治療センターをオンラインでつなぎ、学生は、講義室から、医師や看護師が病棟内でせわしく動く姿や、ドクターカーが発する様子などを見学した。医師や職員

とやりとりするなどして、現場の雰囲気を感じ取っていた。

中継後、同センターの熊田恵介医師(51)が講義室に登場し、学生からの質問に回答。「センターにはさま

ざまな職種の人がいるが、引っ張っていくのは君たち医師。それを意識して今後、勉学に励んで」とエールを送った。

鬼頭世鈴さん(18)＝揖斐郡大野町＝は「実習がないために今後のビジョンが描けなくて不安だったが、中継を見て、救命救急医を目

指したいと思った」、石黒立晟さん(18)＝大垣市＝も「本来なら今頃は実習をして、肌で医療現場を感じられるはずだったので残念」と悔しさを明かしつつ、「コロナ禍なので仕方ない。医療の最前線が垣間見れてありがたい」と話していた。

(武藤直子)

訪問診療の経験
市橋医師が語る

岐阜大医学部

「総合在宅医療クリニック」（岐南町）の理事長、市橋亮一医師（四）が二十七日、岐阜大医学部で訪問診療に関する講義を行った。その中で、新型コロナウイルス患者の自宅療養に触れ、相次いだ東京での診療経験を語った。

市橋さんは知人の医師から求められ、八月二十三日から九月十二日に都内でコロナ患者を訪問診療した。「酸素投入なしでは死亡してもおかしくないケースがたくさんあった」と指摘。普段から災害時に訪問診療ができるチームを整えておく必要性を訴えた。

講義は、医学科四年と看護学科二年の計二百人ほどが受講した。（浜崎陽介）

専門職の発達障害者
現場で必要な支援は

岐阜大でセミナー

岐阜大は三日、発達障害のある人が教員や医師など専門職で活躍するための支援について考えるセミナーを開いた。

岐阜大の保健管理センターと医学教育開発研究センターが主催。今回は、発達障害に関心のある人や支援者ら約百人が参加した。国や県の職員、教員養成課程のある県内の大学教員ら四人が、実習先との連携や教師に求められる役割をテーマに講演した。

文部科学省の井口啓太郎

さんは、教育委員会による障害者雇用率について、二〇一九年六月時点では1・87%と、法定雇用率（2・4%）を下回っていると指摘。事務職員に比べて専門性の高い教職員の雇用率が低いことにも言及した。井



発達障害のある学生の支援について語る
大学教員ら＝岐阜市柳戸の岐阜大で

口さんは「障害者雇用はまだまだ進んでいないのが現状。現場でどんな支援が必要か、見える化していく必要がある」と話した。

セミナーは一七年度から開き、今回で四回目。

（都沙羅）

岐阜大、ウェブセミナー

専門職養成における発達障害者支援

岐阜大学は10月3日、ウェブセミナー「専門職養成における発達障害者支援」教員養成課程・学校現場でのシームレスな支援を考える」をオンラインで開催した。全国の発達障害学生の支援に携わる大学関係者、障害者支援団体等約100名が参加した。

セミナーは岐阜大学の保健管理センター及び医学教育開発研究センターが主催となり、大垣女子短期大学、岐阜聖徳学園大学、岐阜大学教育学部、名古屋大学学生支援本部の協力、日本学生支援機構、岐阜県教育委員会の後援を受けて開催された。岐阜大学が主催するセミナーとして5回目となる今回は、教育領域に特化し、発達障害またはその特性のある学生への教員養成課程や学校現場での支援を考えることがねらいで開催した。

最初に、保健管理センターの堀田亮助教から、これまでの発達障害学生支援に係る岐阜大の取組紹介及び企画趣旨説明があった。第一部は4名の話題提供者が登壇し、岐阜聖徳学園大学の野村香代専任講師、大垣女子短期大学の垣添忠厚准教授からは、大学在学中の支援に関して話題提供があった。岐阜県教委の小島明子氏からは、岐阜県の発達障害者支援担当教員養成事業の取組みが紹介され、文部科学省の井口啓太郎氏からは、文科省が進める「障害者活躍推進プラン」に関する話題提供があった。第二部ではグループディスカッション及び全体討議が行われた。

岐阜大、聖隷浜松病院と

医学教育セミナーとWS

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は11月13日、14日の2日間にわたり、第80回医学教育セミナーとワークショップを聖隷浜松病院とオンラインで共催した。公募を含めた計7つのワークショップならびにウェブセミナーを実施し、講師を含む総勢156名が参加した。

ワークショップでは、「がん医療における多職種連携の要となるコーディネイト能力」
「医学教育に潜むジェンダー・バイアスと医師のアイデンティティ」
「ICT技術の実情」など、多彩なテーマについて活発な議論がなされた。

「がん医療における多職種連携の要となるコーディネイト能力」のテーマでは、医療の高度化・専門化に伴い、縦割り医療やチーム医療が重要となってきたが、がん医療において、他職種連携や協働を達成するために必要不可欠なコーディネイト能力の向上について議論した。また参加者は、実際に能力向上研修を体験することで、自身にあったコミュニケーションの方法やタイプを知ることができ、その必要性についてグループで話し合い、全体発表を行った。

ウェブセミナーでは、聖隷浜松病院の本間陽一郎先生が「これであなただも、医学教育系YouTube!」と題し、聖隷浜松病院の患者向けYouTubeを立ち上げた経緯を踏まえて、YouTubeの活用を推奨する講演を行った。

「社会全体が病院に」

岐阜大医学教育センターが在宅医療講義

岐阜大医学教育開発研究センターは、臨床実習を前にした同大医学部医学科4年と看護学科2年の学生を対象に合同講義を実施した。両学科の約200人が講義とグループワークで在宅医療について学んだ。

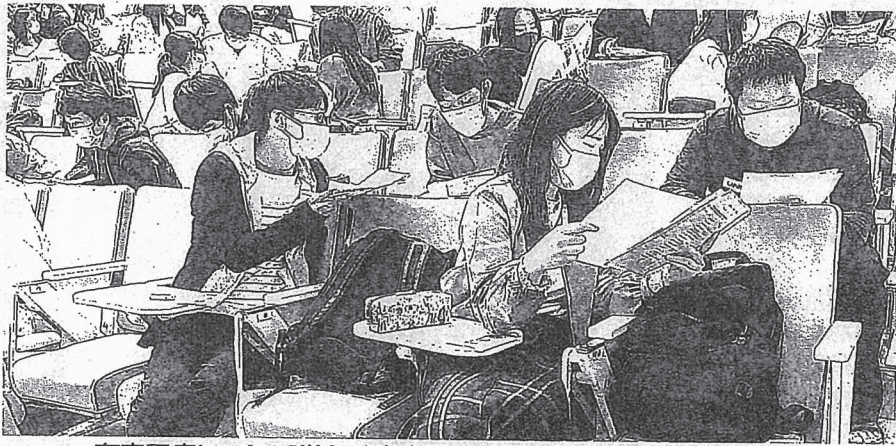
(武藤直子)

医療法人かがやき総合在宅医療クリニック(羽島郡岐南町)の理事長で医師、ケアマネジャーとして活躍する市橋亮一さん(48)が講師を務めた。

市橋さんは、医療機器の小型化で、皮下注射や超音波検査などさまざまな医療が自宅で提供できるようになったと説明。「技術革新により、社会全体が病院になった。今後も遠隔診療はさらに進む」との展望を語った。

学生はグループに分かれて、悪性リンパ腫末期で在宅医療を希望する68歳女性

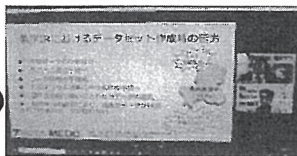
技術革新、遠隔診療拡大を展望



在宅医療について学ぶ岐阜大医学部医学科と看護学科の学生ら
＝岐阜市柳戸、同大

の事例をもとに、支援策を話し合った。医学科4年の関口佑輔さん(22)は「自宅でどこまで医療が提供できるのか、最新の事情を知れ

てよかった」、看護学科2年の杉島由夏さん(20)は「領域を越えて理解を深めることの大切さを改めて感じた」と話した。



ウェビナー
の恒川 幸司助教が「医学教育IR室 関記」データで医学教育の何を変えられたのか」と題して、岐阜大医学部IR室の活動を振り返った。

岐阜大学 MEDC
第81回 医学教育セミナー
岐阜大医学教育開発研究センター(MEDC)は1月22日と23日の2日間にわたり、第81回医学教育セミナーとワークショップをオンラインで開催した。公募を含めた計5つのワークショップ、ウェビナーを実施し、講師を含む総勢120名が参加した。
ワークショップでは、「医療者教育の研究を立案してみよう」"LGBTQ教育の設計・実践"、「ウェブ上で利用できるインタラクティブな教材の利用・作成体験会」など、多彩なテーマについて活発な議論がなされた。「ウェブ上で利用できるインタラクティブな教材の利用・作成体験会」のワークショップでは、オンライン教育、特に非同期教育において必須とされる教材を、簡単に作成することができる無料のオンラインソフトウェア「Lumi Education」を使用し、各自で教材を作成した後、グループで共有して意見を話し合った。

「岐阜学医学教育開発研究センター」
医学教育セミナーとワークショップを開催

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は、去る1月22日と23日の2日間にわたり、第81回医学教育セミナーとワークショップをオンラインで開催した。公募を含めた計五つのワークショップとWebinariを実施し、講師を各々総勢120名が参加した。

ワークショップでは、「医療者教育の研究を立案してみよう」「LGBTQ教育の設計・実践」「Web上で利用できるインタラクティブな教材の利用・作成体験会」など、多彩なテーマについて活発な議論が展開された。

「Web上で利用できるインタラクティブな教材の利用・作成体験会」のワークショップでは、オンライン教育、特に非同期教育で必須とされる教材作成に挑戦した。

簡単に作成することができる無料のオープンソースソフトウェア「Lumi Education」を使用。各自で教材を作成した後、グループで共有して意見を出し合った。コロナ禍だけでなく、平時に戻った後も利用可能な教材作りに役立つ体験をすることができた。

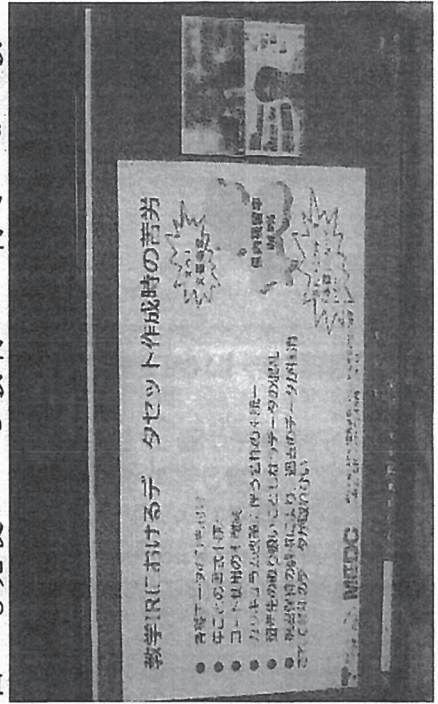
またWebinarでは、座長に自治医科大学の浅田義和氏を迎え、同センターの恒川幸司助教が『医学教育IR室奮闘記』データで医学教育の何を変えられたのか』と題して、岐阜大医学部IR室の活動を振り返った。IRとは、「Institutional Research」の略称で、学内データを収集・分析・報告することにより学内の改善を促すもの。

IR研究の世界的権威であるVolkwein米国ペンシルベニア州立大学名誉教授が提唱する「IRの四つの機能」を紹介しながら、苦勞話や分析結果から得たものについて語った。聴講者からの質問は随時チャット形式で受付、座長及び聴講者との活発な議論も展開された。

MEDCでは、医学教育共同利用拠点として我が国の医療者教育の普及・開発・向上に寄与するため、年3回「医学教育セミナーとワークショップ」を開催している。

次回第82回は5月19日(木)から21日(土)の3日間、第22回医学部・歯学部教務事務職員研修とオンラインで併催予定。(MEDCホームページ：<https://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/>)

Webinarで行われたセミナー・ワークショップ



Web上で利用できる
インタラクティブな教材
の利用・作成体験会

M E D T a a a I k : メドトーク
岐阜大医学教育開発研究センター
「学習者支援」でウェビナーを開催

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は去る3月18日に、『さまざまな「学習・学修できない」と、その支援』と題して、学習者支援に関するウェビナー「MED T a a a I k : メドトーク」を開催した。MEDCでは、これまで定期的に医学教育セミナーとワークショップを実施しているが、期間以外にも学びの場を提供することを目的として、今回、ウェビナーを開催。ウェビナーには講師を含む100名以上が参加した。



ディスカッション

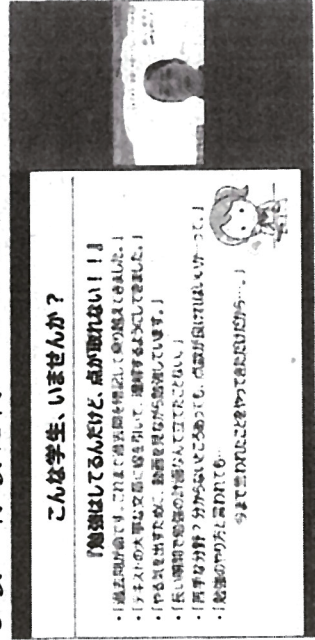
セミナーでは、大学教員4氏を講師として迎え、それぞれの専門分野についてミニレクチャーを行った。後、進行役であるMEDCの西城卓也教授、川上ちひろ併任講師とミニ討論を行った。

信州大の清水郁夫氏は、「学習環境や教員が学習者に与える影響は？」と題して、学習者支援で後回しになりやすい環境や教職者の影響について説明した。岐

阜大の堀田亮氏は、「学習意欲がわからないのです…」と題して、メンタルヘルスに課題がある学習者の理解と支援について、藤田医科大学の藤江里衣衣氏は、「勉強してもテストに合格できないんです」と題して、学習における記憶のメカニズムと支援方法に関して解説した。

また、国際医療福祉大の下井俊典氏は、「手先が不器用で技術演習で苦労します」と題して、医療系職種では不可欠な手先の器用さや習得について、自身の教育経験を織り交せながら解説した。聴講者からの質問は随時チャット形式で受け、聴講者と講師との活発な議論も展開された。

MEDCでは今後も、年3回開催している「医学教育セミナーとワークショップ」を含め、医学教育共同利用拠点としてわが国の医療者教育の普及・開発・向上につなげるため、さまざまなセミナー等の企画に取り組むこととしている。



こんな学生、いませんか?

- ・「勉強はしているんだけど、点が取れない!!」
- ・「これまでの大卒は文部省に報告をせずに、進級するようでした。」
- ・「やる気を出さないため、教習を何度も繰り返しています。」
- ・「長い期間で勉強の計画が立てられない。」
- ・「両手両足を分けて分かっていない。」
- ・「勉強のやり方と違って、今までのやり方と違って。」

藤江氏によるミニレクチャー

拠点活動

拠点活動

—学びの宙の報告—



スターターキット

これから医療者教育学に関わることが多くなるかという教職員のためのeラーニングです。いつでも履修できます。

セミナーとワークショップ

これまでのべ1万3千人以上の参加を頂く我々の代名詞の企画。新しい医療教育の開発研究と普及を促すべく年3回開催する全国セミナーです。

メドギフト

ちょっと深く学んでみたいかなりそうな方にピッタリのきっかけです。約4か月間のコースで、連続する課題を通じて、自身の教育実践の省察や受講者との楽しい議論を通して学べます。

指導者の教育力アップを目指して

MEDCは共同利用拠点として、全国の指導者の指導力向上という大きなミッションのひとつを目指して活動しています。医学のみならず、歯学・薬学・看護学・理学／作業療法学等の専門職が集い協働的に学べる場を提供しています。しかし教育を学ぶニードも、学びたいタイミングも

人によりそれぞれです。そこで、我々は、あらゆる医療者の指導的役割と段階に合わせた様々な教育プログラムを構築しています。それらを総称して、学びの宙(そら)と名付けました。これらを通じて、連続的かつ体系的で、職種横断的な学びの旅に参加できることでしょう。

医療者教育スターターキット

Starter Kit for Health Professions Educators

新任教職員・指導者むけ



紹介動画の視聴やコンテンツ、受講登録方法など詳細が確認できます。

概要

医療者教育スターターキットは医療者教育学の基本を学ぶeラーニングプログラムです。医療者教育機関で働き始めたばかりの教員、職員、あるいはこれから医療者教育学を学んでいきたい教職員が教職協働で学ぶことができるプログラムとしてMEDCが開発し、(文部科学省・医学教育共同利用拠点第3期事業)今年度12月より一般公開となりました。LMS(学習管理システム)のMoodleを利用し、Stepごとに動画を視聴し、小テストで確認する内容となっており、「アクティブラーニング」「シミュレーション教育」「学生支援」「OSCE」「ポートフォリオ」「認証評価」「Institutional Research」の7つのStepで学びます。

MEDC 担当教職員

早川佳穂 西城卓也 藤崎和彦 川上ちひろ

今福輪太郎 恒川幸司

中田さおり 福井暁子 井川智子

特色・報告

eシンポジウムでの意見交換

教務事務職員研修と併催で実施した第79回医学教育セミナーとワークショップのeシンポジウムにて、公開に先立ち一部教材動画を公開し、視聴後、意見交換を行いました。挙げられた意見を参考にプログラムをブラッシュアップしました。

教務事務研修内での活用

第22回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修のプログラム内で教材として活用し、35名が修了しました。修了後の感想として、「わかりやすく役に立つ教材であった」「他の職員にも勧めたい」など好意的な意見が聞かれました。

一般への公開

令和3年12月よりMEDCのHP内で受講登録の案内を開始し、一般公開となりました。3月までに198名が受講登録し、91名が修了しました。

今後の課題と抱負

令和4年度は医療教育機関のFD/SDでの活用のトライアルを実施し、多くの機関で活用していただけるような、システム作りを目指します。また受講者の幅広い意見を集め、さらに有意義なプログラム運営を行います。

医学教育セミナーとワークショップ

Seminars and Workshops in Medical Education

最新的话题を学びたい方むけ



これまでの医学教育セミナーとワークショップや、最新の開催情報を確認できます

概要

MEDC では、全国共同利用拠点として、医療者教育の普及と、新しい医療者教育の開発研究を促すための Faculty Development(FD)/Staff Development(SD)「医学教育セミナーとワークショップ」を定期的で開催しています。令和2年度より、春、秋、冬3回の定期開催となり、春は教務事務研修（p37参照）秋は全国の医療系大学との共催とすることで、より幅広い医療者教育関係者とともに、多職種にわたる参加者へ、その時代のニーズにあったテーマのFD/SDを届けています。またより多くの方に気軽にご参加いただけるように、主に冬は Web 開催としています。

MEDC 担当教職員

西城卓也 藤崎和彦 鈴木康之 丹羽雅之
川上ちひろ 今福輪太郎 恒川幸司 早川佳穂
中田さおり 福井暁子 西村幸代
藤井梨恵子 窪田恭子 井川智子 岡田陽子

第79回 医学教育セミナーとワークショップ

5月22日～23日

第22回国公私立大学医学部・歯学部教務事務職員研修との併催で実施しました。（参加者154名 講師19名 Web開催）

第79回医学教育セミナーとワークショップ

第80回 医学教育セミナーとワークショップ

With 聖隷浜松病院 11月13日～14日

長い歴史の中で初めての臨床研修病院との共催となり、今後、卒前卒後のシームレスな教育を目指す新たな試みとなりました。（参加者102名 講師47名 Web開催）

第80回セミナーとワークショップ実施要項

第81回 医学教育セミナーとワークショップ

1月22日～23日

Web開催の新たな試みとして、バーチャル空間での交流の場を提供しました。（参加者93名 講師24名 Web開催）

第81回セミナーとワークショップ実施要項

今後の課題と抱負

この2年間、対面開催ができませんでしたが、対面、Web開催それぞれのメリットを最大限活かし、多様なニーズに応えるようなFD/SDを提供していきたいです。

アソシエイト会員制度

Associate Membership

学びの宙を頻繁にご活用される方へ



アソシエイト会員認定に必要な単位（ポイント）の詳細などがご確認できます。

概要

アソシエイト会員認定制度はフェローシッププログラム（p36参照）の1つとなります。MEDC 主催の医学教育セミナーとワークショップの各領域の企画に一定数参加され医学教育の基本を学ばれた方をアソシエイトとして認定する制度となっています。医学教育の基本領域として、教育方法（TL: Teaching and Learning）、評価（A: Assessment）、カリキュラム開発（CD: Curriculum Development）、運営/リーダーシップ（ML: Management/Leadership）研究（R: Research）の5つが設定されており、要件に定められた単位を取得することで認定されます。

MEDC 担当教職員

西城卓也 藤崎和彦 川上ちひろ 今福輪太郎

恒川幸司 早川佳穂 中田さおり 福井暁子 西村幸代

特色・報告

令和3年度の認定者

令和3年度は15名がアソシエイトとして認定されました。職種の内訳は医師7名、歯科医師4名、看護師2名、理学療法士1名、その他1名となっています。

多職種にひろがるアソシエイト認定者

2016年に初めての認定者が誕生以来、6年目となるこの制度ですが、本年度、認定者が100名を越して102名となりました。職種の内訳は医師42名、歯科医師14名、薬剤師6名、看護師13名、理学/作業療法士7名、その他20名と多職種にわたっています。

今後の課題と抱負

アソシエイト認定制度の目的の1つに全国の医療者教育の現場で活動しているメンバーとの交流があります。100名を超すコミュニティーとなり、今後交流の場をさらに設け、医療者教育者としてステップアップできる支援をつづけるように取り組んでいきます。

フェローシッププログラム Fellowship Program

少し体系的に学びたい方へ



フェローシッププログラムの最新のコース
『メドギフト』の詳細が確認できます。

概要

フェローシッププログラムは全国の医療者教育者向けに MEDC が提供するプログラムで（文部科学省共同利用拠点第 2 期事業）継続的かつ体系的に医療者教育者の能力開発を支援する FD です。具体的には「アソシエイト認定（p 35 参照）」とオンラインコース「メドギフト」の修了で「MEDC フェロー」として認定されるプログラムです。本項目では主に自身の教育実践を振り返り、多職種を受講者間で意見交換をしながら医療者教育について学ぶ「メドギフト 2021」に関して報告します。

MEDC 担当教職員

早川佳穂 今福輪太郎 西城卓也 川上ちひろ

恒川幸司 鈴木康之

中田さおり 福井暁子

特色・報告

メドギフト 2021

令和 3 年 3 月 8 日～7 月 4 日の期間で実施し、医師 11 名、歯科医師 4 名、薬剤師 2 名、看護師 4 名、理学療法士 1 名、作業療法士 1 名、臨床検査技師 1 名、臨床工学技士 1 名、その他 2 名の計 27 名が受講しました。今年度より学習管理システムの Moodle を利用し、教育方法や学習評価、プログラム評価などの基本を受講者自身の教育実践の振り返りや受講者同志のオンライン上でのディスカッションを通して共に学びました。また、コースの間ではオンラインワークショップを開催し、受講者が画面越しではありますが、一同に会してディスカッションを行いました。

MEDC フェロー

令和 3 年度も多職種の 10 名が MEDC フェローとして認定され、総計 62 名となりました。

今後の課題と抱負

今年度も多職種で交流し学ぶ機会が提供できました。MEDC フェローの認定者も増えてきましたが、今後は医療教育に熱意のある MEDC フェローの皆さんがさらに活発な交流ができる場を展開できるようにいたします。

MEDC 機関誌

新しい医学教育の流れ

Trends in Medical Education

医学教育の潮流を知りたい方むけ



過去に「医学教育セミナーとワークショップ」に参加された方は、全文閲覧が可能です。

概要

医療人の育成および教育に関する活動報告や情報提供、意見交換を目的とした機関誌として、MEDC は「新しい医学教育の流れ」を発刊してきました。

これまで医学教育セミナーとワークショップの報告書としての特色が強かった本誌は、2015年（15巻1号）より、医療者教育に携わる方々からの活動報告や総説、意見などの論文を掲載する機関誌として刷新を図り、2020年（第20巻2号）にはオンラインジャーナルとして発刊しています。

2021年は、「医学教育セミナーとワークショップ」の開催にあわせて、3号を発刊しました。

MEDC 編集担当

今福輪太郎 丹羽雅之 早川佳穂 西城卓也

川上ちひろ 恒川幸司 鈴木康之 藤崎和彦

藤井梨恵子

特色・報告

オンラインジャーナル

冊子体として発刊していた機関誌をオンラインジャーナル化することで、利用者の本誌へのアクセス・利便性を高めることができました。一方で、各号の論文や報告ごとの閲覧およびダウンロードは整備中であり、さらなる改善をしていきたいです。

掲載論文

2021年は、総説「パンデミック下のオンライン授業の文献検討」、活動報告「コロナ禍での基礎看護技術演習」、寄稿「コーチングの視点からのR2C2とC3PO」の計3編の投稿論文が掲載されました。医学だけでなく看護領域からの投稿もあり、引き続き、より多くの多職種からの教育実践報告や意見等をお待ちしております。「セミナーとワークショップ」の報告に加えて、医療者教育に関する内容のさらなる充実が今後の課題となります。

今後の課題と抱負

本誌の内容を充実させるためには、より多くの方からの投稿が必要であり、そのための広報体制や編集体制のさらなる整備が必要です。医療教育者だけでなく、医学生や大学院生からの投稿も広く募りたいです。

教務事務研修

Staff Development

医療者教育に携わる事務の方へ



対象・期間

全国医学部歯学部教務事務職員

5月21日～5月23日

概要

国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修（教務事務研修）は国立大学医学部長会議の教育制度・カリキュラムに関する小委員会と全国医学部長病院長会議医学教育委員会の主催で、2001年に岐阜大学に全国共同利用施設として医学教育開発研究センター（MEDC）が設立されて以降、年に一度、2泊3日の日程で開催されている研修会です。

MEDC 担当

藤崎和彦 早川佳穂

特色・報告

全面オンライン化

2020年度はコロナ禍で中止になったため、2021年度はZoomやMoodleを駆使したWebでの開催となり、無事にオンラインで実施できました。

FDとSDの融合

2日目のプログラムは医学教育セミナーとWSに参加している、教員や臨床現場での指導者と協働のプログラムにして、一緒に学び議論をしながらFDとSDの融合する機会となりました。

スターターキットの活用トライアル

別項でも紹介しているスターターキットのMoodle教材のお披露目&活用トライアルとして、たくさんのフィードバックを頂きました。

今後の課題と抱負

全国共同利用拠点第3期事業のテーマとして掲げる「FDとSDの融合」をさらに発展できるよう、スターターキットのより良い活用を各大学と模索しながら、さらに効果的な学びの場を目指して参ります。

ホームページ/ Facebook/ Twitter Website/ Facebook/ Twitter

インターネットを通じた情報発信

MEDC のホームページ

～MEDC は、医療者教育の新しい潮流を創ることに挑戦し続けています～

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/>



本年度 7 月より、MEDC のホームページが、デザインも新たにリニューアルしました。MEDC の紹介とともに、MEDC が提供する

「医療者教育の学びの宙」、オンラインジャーナル「新しい医学教育の流れ」にアクセスしやすいトップページとなりました。さらに「医療者教育の学びの宙」のコンテンツとして医療者の指導的役割と段階に合わせた様々な教育プログラム「セミナーとワークショップ」「教務事務職員研修」「アソシエイト認定制度」「フェロシッププログラム」「医療者教育スターキット」のページを設けました。医療者教育を学びたいかたのニーズに合わせたプログラムを選択できるように、各プログラムの案内をはじめ、最新情報を載せています。また、大学院の紹介として「医療者教育学専攻修士課程」「医学教育学博士課程」のページを設けており、それぞれの特色や、卒業生の声などもお届けしています。今後も多くの医療者教育に関わるかたの学びへの入り口として、更新していきたいと考えています。(担当 早川佳穂・福井暁子)

Facebook

Facebook では、MEDC で企画しているイベントの告知や、実施報告を行っています。随時情報を発信しており、申し込みサイトのリンクを添付していますので、申し込みをしていただけます。

Twitter

2020 年から Twitter を開始し、教員や博士課程の学生の論文紹介など行っています。

SNS の情報発信を通じて、皆さんとのつながりを作りたいと思います。



大学院教育

大学院

—教育研究の推進—



博士課程

英文誌にアクセプトされる医学教育・医療者教育研究をパブリッシュすべく、これまで築いた海外の研究者とのネットワークを生かしながら、協働的にハイレベルな研究指導を行う体制を築いています。

修士課程

新しい医療教育の開発研究と普及を促し、医療教育に貢献できる人材を育成するためのFDです。

大学院医学系研究科の一部門として

MEDCの教員は、医科学専攻の医学教育分野の博士課程、そして医療者教育学専攻の医療者教育学の修士課程にて、大学院生指導と研究推進を担っています。いずれの課程においても、医師のみならず様々な医療系職種の教育者や、医療者教育に携わる教員・指導者の方々に門戸

を開いています。特に医療者教育学修士課程は、2020年に国内で初めて設立された課程です。卒業生は体系的に医療者教育学とその研究の基本を修了しています。国内でリーダーシップを発揮し、医療者教育の活動を推進していくオピニオンリーダーになることが期待されています。

研究領域

原則として、履修生が関心がある研究テーマに合わせて研究指導を進めています。特に専門的に進めているのは、教育理論を枠組みとした質的研究です。

修士課程(医療者教育学)

Master's course (Health Professions Education)

コンピテンシー

教育能力、教育設計力、先導力、協働力、学識の発信力



対象・期間

修士課程 1-2 年生 12 名

4 月 1 日～3 月 31 日

概要

本課程は、1 年次で「多職種連携」「教育方法と評価」「日本に相応しい教育設計」「人材育成」「マネジメント」等を教育理論と関連づけながら体系的に学びます。2 年次では、1 年次の学びを活かしつつ、自身の教育実践から沸き起こる研究課題を修士論文として取り組みます。

ミッション

本課程は、グローバルな視点を有し、多職種の人材と連携しながら、医療者教育を設計、実践、改善、発信できる能力の持つオピニオンリーダーの育成を目指します。

MEDC 担当教員

西城卓也 今福輪太郎 川上ちひろ 恒川幸司 早川佳穂 藤崎和彦 丹羽雅之 鈴木康之

特色・報告

同期型・非同期型オンライン教育のブレンド

21 年度もコロナ禍により、一部スクーリングの現地開催ができなかったが、前年度の経験を活かし Web 授業への切り替えもスムーズにできました。また、各科目は Microsoft Teams や Zoom、Moodle を活用し、対面授業と同期型および非同期型のオンライン演習をブレンドすることで、効果的な学習機会を提供することができました。

1 期生の修了

20 年度入学の 1 期生 6 名が、今年度、修士論文の学位審査会を経て無事に本課程を修了することができました。自身の教育実践を批判的に吟味し、「地域医療研修における外来研修の学び」や「歯科医師のプロフェッショナルリズムモデルの構築」などに関する研究プロジェクトに取り組みました。今後の修了生の医療者教育での益々の活躍が期待されます。

今後の課題と抱負

現地の空気を感じ人々との交流を通じて学べることも多くあるため、With コロナ時代の海外視察やお互いの教育実践を視察する現地経験学習の在り方を考える必要があります。また、今後の修了生のコミュニティ形成や MEDC との関わり方も考えていきます。

博士課程（医学教育学）

PhD course (Medical Education)

コンピテンシー

研究能力、学識の発信力



対象・期間

博士課程 1-4 年生

4 月 1 日～3 月 31 日

概要

本課程では、大学院生が各自の教育分野に応じて、独自の研究テーマを設定し、積極的に研究活動を行っています。研究成果の国際誌への掲載を目指し、MEDC 教員が研究指導にあたっています。現在、5 名の大学院生（博士課程）が在籍しています。

ミッション

本課程の修了者は、医学教育学の専門家として、教員、医療者、学生等を指導でき、教育システムを自ら構築、改善し、研究を遂行できることを目標としています。

MEDC 担当教員

西城卓也 今福輪太郎 川上ちひろ 恒川幸司 早川佳穂 藤崎和彦 丹羽雅之 鈴木康之

特色・報告

個別のニーズに応じた定期的な研究指導

社会人大学院生として所属機関の業務と両立させながら研究を進めていくため、研究計画立案、データ収集・分析、論文執筆と個々のニーズにあわせながら定期的に研究指導を行っています。研究指導は、対面に加えてオンラインで実施することで忙しい大学院生でも無理なく着実に研究を進められています。

博士課程修了者

21 年度は下記の論文が受理され、博士課程学位審査会を経て、2 名が無事に修了することができました。

Obara H, Saiki T, Imafuku R., Fujisaki K, Suzuki Y. Influence of national culture on mentoring relationship: A qualitative study of Japanese physician-scientists. BMC Med Educ, 21: 300.

Akamine Y, Imafuku R, Saiki T, Lee-Jayaram J, Berg BW, Suzuki Y. Physicians' perceptions of followership in resuscitation in Japan and the USA: a qualitative study. BMJ Open 2021;11: e047860.

今後の課題と抱負

社会人大学院生が忙しい日々の中でモチベーションを保ちながら研究を遂行するための指導体制やサポートの在り方は引き続き検討していきたいです。

卒前教育

卒前教育

—医学生の学びを支える—



低学年

地域の住民との交流や施設の訪問などを体験できる early exposure やコミュニケーションの基本を学ぶ実習を担っています。

中学年

研究室体験から医療面接の基本や人のライフサイクルを理解するために必要な人文社会学系の授業も取り入れています。

高学年

臨床実習の準備教育を担っています。また OSCE などの評価について学部や医師育成推進センターと連携して運営に参画しています。

医学部医学科の一部門として

MEDCは、岐阜大学の医学部の卒前教育にも深く携わっています。岐阜大学医学部は伝統的に問題基盤型のチュートリアル教育を主体としたカリキュラムを組んでいます。近年は、それに固執することなく、様々な教育アプローチを積極的に導入し、学生の学びを最大限に引き出すべく、ICTを

駆使した新しい授業や実習を推進しています。MEDCのカバーする科目は実に多様です。我々のネットワークを生かし学内の他講座のみならず、他大学・岐阜県内外の様々な医育機関とのコラボレーションを図ってユニークな授業の提供に努めています。

テュトリアル教育

Problem based Learning

コンピテンシー

医学知識と問題対応能力

対象・期間

医学科 2-4 年生の各講座の学習に
毎週導入

特色・報告

オンライン化

2021 年度もコロナ禍の中での PBL となり、MEDC はオンライン授業対策チームに入り、Microsoft Teams を駆使したオンライン PBL の導入に助言・協力できました。

学習アプローチのブレンド化

近年のアクティブラーニングの多様化を受け、グループ討議を行うテュトリアルコアタイムの時間の一部を反転授業やよりインタラクティブな講義に切り替えることに成功しました。

スマートフォンの活用

検索サイトの活用が普及した情勢を省み、“何も見ないで議論する PBL”からの脱却を図るべく、タブレット等による検索を一定の条件下で認め推奨する試みを始めました。

PBL 概要

基礎医学や臨床医学を体系的に学習するために、学生は実に多くの知識を吸収し問題解決能力を育みます。シナリオに基づくグループ学習が毎週展開されています。

PBL の狙い

知識を吸収し記憶に定着させるには様々な教育アプローチがありますが、

PBL チューター

岐阜大学医学部医学科の全教員が参画しています。
MEDC は基礎系講義と臨床系講義との両方のチューターを幅広く担当しています。

今後の課題と抱負

オンライン PBL が常態化しつつあるコロナ禍において、時間割もより弾力化を図り、対面とオンライン授業の効果的なブレンドをすすめることが課題です。タブレットの活用を容認する中での、新たなチューターファシリテーションスキルも探索してゆきます。

医学概論

Introduction to Medicine

コンピテンシー

医学・医療の包括的知識を身につける



対象・期間

医学科 4 年生

4 月 15 日～7 月 29 日

授業概要

6 年間の医学教育課程のスタートとして、医学とは何か、人間の本质とは何か等、多彩な講師によるオムニバス形式で実施されています。

学習目標

MEDC では以下の 2 コマを担当しています

- ① 「なぜ患者さんとのコミュニケーションは難しいのか」5/13
: 患者と医療者のコミュニケーションの基本を知る
- ② 「チーム医療を体験してみよう」 7/8
: 多職種連携の基本を知る

MEDC 担当教員

西城卓也 藤崎和彦 川上ちひろ

特色・報告

コミュニケーション体験

医療を行う上で患者や多（他）職種実習とのコミュニケーションは非常に大切です。6 年間の授業や実習でも必要となるコミュニケーションを体験する最初の授業です。

看護学科との合同授業

医療の重要なパートナーの一人となる看護学生と交流できる、学生時代では貴重な授業の機会です。この授業では、他職種の基本が学べるよう、看護学科の先生とも協力して実施しました。

オンラインを取り入れた授業

スマートフォンで簡単なクイズに答えてもらうような問題を作成しました。Microsoft Teams で授業の事前アナウンスや感想を記入してもらうなどに利用しました。授業当日は対面と Zoom を用いて授業を行いました（入国できない学生対応）。

今後の課題と抱負

医学生が最初に受講する授業ですので、医学・医療とは何かについて、興味を持てるような話題提供ができるようにしたいと考えています。

テュトーリアル選択配属 Research Experience (Elective)

コンピテンシー

リサーチマインド、批判的思考力、自己学習能力



対象・期間

医学科 2 年生

1 月 12 日～3 月 18 日

実習概要

10 週間で研究計画の立案、実施、分析、発表までを体験する科目です。学生自身が興味のある研究課題を見出し、主体的に研究活動を行います。

学習目標

医学教育学の選択配属では、学生の主体的な研究立案、データ収集・分析、考察、発表といった研究の一連の流れを体験することで、学生の研究に対する基本的理解の向上やエビデンスに基づく思考力、主体的な学習態度などの涵養を目的とします。

MEDC 担当教員

今福輪太郎 川上ちひろ 早川佳穂

藤崎和彦 西城卓也

特色・報告

主体的な研究活動

学生自身が身近に感じる教育への問題意識を研究課題として、学生が主体的に取り組める工夫をしています。また、Microsoft Teams を活用し、先行文献の共有や、分析、発表等の資料作成をオンライン上で実施し、学習の効率化を図っています。

質的研究の経験

学生の研究に対する考え方を広げるため、量的研究とは違うパラダイムである質的研究の実施を促しています。

他大学合同発表会の企画

2014 年度より関西医科大学や香川大学と合同で同時期に医学教育研究に取り組む学生とのウェブ発表会を企画しています。他大学の学生に研究報告を行ない、今後の研究の方向性を検討する貴重な機会となっています。

今後の課題と抱負

多様な研究フィールドの確保や ICT の活用、他大学との共同研究活動など、さらに深い学びを促していきたい。学会発表や論文執筆など、教育研究に興味のある学生には、フォローアップの指導体制の確立も必要になります。

地域体験実習

Community-based learning

コンピテンシー

自ら学ぶ、学びや体験を表現する



対象・期間

医学科 1 年生

10 月 7 日～12 月 2 日

授業概要

岐阜県の医療制度などを学び、また岐阜に暮らす住民との交流によって、それらがどのような関連しているのかを知る。さらに医療系学生として何が必要なのかを考えます。

学習目標

人の発達過程を学ぶ、地域の医療・保健制度を知り住民との関係を理解する、地域の住民との交流を通じてコミュニケーションスキルやマナーを理解し実践できる、医療者としてのプロフェッショナリズムやデジタルプロフェッショナリズムを学ぶ、フォトボイスを作成し発表する

MEDC 担当教員

西城卓也 藤崎和彦 鈴木康之 丹羽雅之
川上ちひろ 今福輪太郎 恒川幸司 早川佳穂

特色・報告

岐阜県のことを知る授業

岐阜県の地理、医療保健制度、疾病の特徴、地域の様子などに興味を持ってもらうことができました。授業での学びをフォトボイスにまとめ、発表してもらいました。

コミュニケーション体験

様々な領域のパートナーにご協力いただき、コミュニケーション実習を行いました。

オンラインを取り入れた授業

Zoom を活用したオンライン実習や、Microsoft Teams を用いたグループ学習などを織り交ぜて実施できました。

様々なエキスパートの招聘

オンライン授業のおかげで、道信良子先生（札幌医大）や宇野哲代先生（ことばの泉 作文教室）、後藤忠雄先生（県北西部地域医療センター）など、学内外の先生方の講義等が受講できました。

今後の課題と抱負

（自己・グループ）学習と様々な体験とが、効果的にリンクできるような仕組みを作りたいと考えています。

この授業で学びをフォトボイスや今後の行動に落とし込めるような問いかけを工夫したいと考えています。

医師患者関係

Doctor-Patient Relation

コンピテンシー

コミュニケーション



対象・期間

医学科 4 年生

7 月 26 日～7 月 30 日

実習概要

1 年生の初期体験実習、地域体験実習と 4 年生の OSCE をつなぐ意味で、医師患者関係と医師患者コミュニケーションの基本を体験学習を通じて学ぶものです。

学習目標

医師患者関係の基本とコミュニケーションのポイントについて理解し、良好な医師患者関係形成のための基本的なコミュニケーション技能を体験学習を通じて体得します。

MEDC 担当教員

藤崎和彦 川上ちひろ

特色・報告

オンライン化

2021 年度もコロナ禍のため、対面とオンラインとのハイブリッドになりました。Microsoft Teams や Zoom を使いながら密を避けての実施となりました。

模擬患者面接体験

毎年、学生から好評の模擬患者面接体験を昨年に引き続き Zoom を使って行いました。模擬患者さんもだんだん Zoom に慣れてきてスムーズに実習できました。

豊富なトピックス

性的マイノリティやコミュニケーションが苦手な人との対応といった新しいテーマから、行動変容の LEARN のモデル、Bad News Telling の SPIKES モデルといったアドバンスなテーマを扱っています。

今後の課題と抱負

MEDC の関わる卒前教育カリキュラムの見直し作業の中で、医師患者関係のカリキュラムも大きくバージョンアップを目指しています。乞う、ご期待を！

臨床推論

Clinical Reasoning

コンピテンシー

医学知識と問題対応能力



対象・期間

医学科 4 年生

10 月 1 日～10 月 21 日

実習概要

臨床実習準備の一環として、総合内科学等と共同実施している科目です。この実習の直後の臨床実習に必要なスキルの土台を作るのに役立っています。

学習目標

本コースはどの科でも必要・基本となる臨床能力と知識を身につけることを目標としています。そして様々な症候に対して病歴・診察を通じて診断にたどり着く思考、そしてその症例呈示ができる力を身につけます。

MEDC 担当教員

西城卓也 川上ちひろ 恒川幸司

特色・報告

オンライン化

2021 年度もコロナ禍の中での実習となりました。Microsoft Teams や Zoom を駆使した Web 授業と対面での演習を織り交ぜて実施できました。

様々なエキスパートの招聘

同期型のオンライン授業のおかげで、望月礼子先生（鹿児島大）や清水郁夫先生（信州大）の貴重な講義を、学生に提供することができました。

模擬カンファレンス

評価も重要です。臨床実習での症例カンファレンスで堂々をプレゼンテーションし、臨床推論の議論に参加できるよう、模擬症例カンファレンス形式の口頭試問法を開発し実施しています。

今後の課題と抱負

この実習の次の科目が「ライフサイクル」で、症例を社会医学的レンズから考察する授業を行っています。その授業と連動させて、患者さんの診断に必要な臨床推論のレンズと社会医学的レンズから患者さんを見られるようカリキュラム開発を進めたいと考えています。

ライフサイクル

Learning the life cycle

コンピテンシー

人間の生き方を知る、医学知識を問題解決に応用する



対象・期間

医学科 4 年生

11 月 8 日～11 月 12 日

授業概要

様々なライフサイクルを経る人間の一生を生物心理社会モデルの視点でアセスメントします。そしてそこで起こる問題や課題に対して、これまで学んできた知識を応用して問題解決方法を考えます。

学習目標

多職種で高齢者や家族の支援を議論できる（多職種連携授業 11/8）、ライフサイクル、人の発達の特徴と課題を説明できる、家族のライフサイクルやシステムについて事例を通じて議論できる、情報、科学技術による医療、介護、福祉の変容が予測できる

MEDC 担当教員

西城卓也 川上ちひろ

特色・報告

他の医療系大学との多職種連携授業

岐阜県の他の医療系大学（岐大含み 5 校、9 職種）と連携授業を行いました（11/8）。

学内の様々な領域の医師との連携

臨床実習で指導いただくことになる精神科、産科婦人科、脳神経内科などの医師に動画教材の作成をお願いすることで、臨床実習までに学んでおいてほしい知識の準備ができました。

オンラインを取り入れた授業

多職種連携授業では、Zoom を用いて授業を行いました。また、ライフサイクルに関する動画教材を多く作成し、Microsoft Teams に載せ、自己・グループ学習のきっかけづくりをしました。最終日はグループで作成した課題発表会を行いました。

今後の課題と抱負

「臨床推論」と連携した授業構成であるため、双方の授業が効果的に学べるような進め方を工夫したいと考えています。動画教材を多く視聴してもらい、グループワークで課題解決を検討するように促していますが、有意義なグループワークができるよう課題提示を工夫したいと考えています。

医療英語・国際交流

Medical English・International communication

コンピテンシー

英語コミュニケーション、異文化対応能力



対象・期間

医学科 4-5 年生

課外実習（2月～7月：計5回）

実習概要

本課外実習は、6年次の選択臨床実習期間に海外の医療機関での実習を希望する者を対象とした準備教育です。英語による医療面接や身体診察、症例報告を模擬患者や講師とのロールプレイを通じて学びます。

学習目標

海外臨床実習で求められる医療面接や身体診察を含む患者コミュニケーションに必要な英語表現を習得します。実習先の指導医や医療者間の会話内容が理解できる英語力を目指します。

MEDC 担当教員

今福輪太郎 早川佳穂 西城卓也

特色・報告

外部講師の招聘

英国で医師としての臨床経験があり、日本での医療英語教育に精通している外国人講師を招聘しています。

外国人模擬患者の協力

医療英語ワークショップではより実践的な学びを促すため、外国人市民や留学生の協力を得て模擬患者として実習に参加してもらっています。

オンライン化

COVID-19の感染拡大により2020年度より、全ての医療英語ワークショップをオンライン化しました。今後、オンラインによるコミュニケーションの機会もよりいっそう増えてくるため、時代のニーズに合った学習機会となっています。また、オンライン化により、東海国立大学機構として名古屋大学の学生も参加しやすくなりました。

今後の課題と抱負

eラーニング教材など医療英語や海外実習準備に有用なリソースをさらに共有していきたいです。21年度の海外実習はCOVID-19の感染拡大により中止になりました。オンラインによる新たな国際交流の在り方を検討します。

英語 OSCE

English OSCE

コンピテンシー

英語コミュニケーション、異文化対応能力



対象・期間

医学科 5 年生

課外実習（7 月 3 日）

実習概要

海外臨床実習の希望者対象の準備教育の総括として、英語 OSCE を実施しています。試験は 3～4 ステーションで構成され、症例シナリオが提示されたあとに、医療面接や症例報告に関する実技試験を行います。

学習目標

海外臨床実習で求められる医療面接や身体診察を含むコミュニケーションに必要な英語表現や態度、非言語コミュニケーション能力等を総括的かつ形成的に評価し、今後の学習につなげることも目的としています。

MEDC 担当教員

今福輪太郎 早川佳穂 西城卓也

特色・報告

オンライン OSCE の実施

COVID-19 の感染拡大のため、オンライン OSCE を実施しました。学生は会場に集合し、評価者と模擬患者はオンライン参加の形態としました。各ステーションにパソコンを設置し、受験者はパソコン上の模擬患者に対して実技を行いました。名古屋大学の学生（計 3 名）はオンライン参加により受験することも可能となりました。

卒業生の協力

学生時代に医療英語ワークショップの受講と英語 OSCE の受験を経験し、海外臨床実習に参加した卒業生に OSCE 評価者として協力してもらいました。

評価方法の工夫

各評価者の評価表を Google スプレッドシートで作成しました。オンライン上に評価を記入してもらうことで、評価の共有・集計の効率化を図ることができました。

今後の課題と抱負

受験者数に応じた十分な評価者の協力を得ることが今後必要となります。ある程度の模擬患者の演技の統一などは今後の課題となります。

学内活動・学外活動

指導医講習会

CLINICAL TEACHER TRAINING@GIFU PREFECTURE

岐阜県では、初期臨床研修医の指導に当たる研修病院の指導医への講習会を、岐阜県医師育成・確保コンソーシアムが年に2回ほど、2日間で主催しています。このコンソーシアムは岐阜県の研修病院群で構成されるコンソーシアムです。MEDCでは講習会責任者の一端を担い、講習会に参画しています。令和3年度は、コロナ禍へ対応し事前学習、オンラインセッション、対面セッションを有機的に組み合わせ開催いたしました。この講習会では、指導医の教育スキルとして頻用されるコーチング、フィードバック、評価などに焦点を当てて講義と演習を行っています。この講習会を参加した方のなかから、マギル大学の海外臨床教育研修プログラムに参加者を募っており好評を博しています。

ユニットの会

UNIT ASSOCIATION

全国の医学部や大学病院にある医学教育に関連する部門が集うユニットの会を設置し、全国の仲間とともに運営しています。医学教育ユニットの会における活動は、主に2つあります。1つはメーリングリストによる情報共有であり、もう1つは総会で、年に一度の日本医学教育学会大会に顔合わせを兼ねて実施されます。前者では、セミナーやワークショップなどの開催案内や、最近ではコロナ禍に伴う情報共有も数多くなされています。後者については、2021年の第53回大会において、全コンテンツがオンラインでの実施となったことに伴い、Zoomを利用したユニットの会総会を開くこととなりました。当日は64名の参加者で開催され、無事に顔合わせをすることができました。

臨床スキル・シミュレーションラボ

SKILLS-LAB

臨床スキル・シミュレーションラボ（スキルスラボ）は教育福利棟 4 階にあり、医療で必要な基本的な技術を、シミュレータ等を用いて練習／学習できる、主に卒前教育を対象にした施設です。利用者の多くは医学部医学科学生であり、その利用目的は臨床実習および選択臨床実習期間中の臨床実習技能訓練、OSCE 前実習や OSCE 試験、それに加え、2つのサークル「基本的臨床技能の会」、「Gifu Emergency Medical students」が活動を行っています。また、研修医のオリエンテーション、看護部の新人研修、さらには特定行為看護師の研修でも利用しております。昨年度に続き、コロナ感染対策のため、利用人数は例年に比べて少なかったのですが、Pre,Post CC-OSCEに対する自主練習について、予約枠を設定することで、すべての希望者が感染対策をしたうえで練習できるように工夫したところ、以前より多くの学生の利用がみられました。OSCE の公的化にむけてより学生が積極的に利用できるように、例えば臨床実習の空いた時間に簡単に利用できるような環境やシステムを整えることが課題となります。

岐阜大学模擬患者の会

SIMULATED PATIENT ASSOCIATION

患者役として医療者教育に協力する市民の会です。模擬患者さんのご協力は医療者教育には欠かせないものとなっております。令和 4 年 2 月現在、46 名（男性 12 名、女性 34 名）が活動をされています。本年度も 4 年生の臨床実習前 OSCE、OSCE 試験を中心に多くの模擬患者さんに患者役として、ご協力いただきました。さらに 1 年生の地域体験実習授業内のコミュニケーション実習で学生とコミュニケーションをとっていただいたり、4 年生の『患者は語る』の授業で患者や患者家族の体験を語っていただいたりと、幅広くご活躍いただいています。また、令和 5 年度から臨床実習前 OSCE の公的化を踏まえ、模擬患者さんも『認定標準模擬患者』として認定を受けることが必須となりました。1 月には認定の最初のステップである暫定認定を当模擬患者の会の会員のかたにも受けていただきました。今後ますますの活躍が期待されます。

医学教育分野の IR 実践

PRACTICE OF INSTITUTIONAL RESEARCH IN MEDICAL EDUCATION

Institutional Research (IR) とは、学内のデータを収集・分析・報告することによって大学の改善を促すことです。岐阜大学医学部医学科では、2017年に「医学教育 IR 室」が正式発足し、学生およびカリキュラムを統括的に評価する役割を担っています。2021年度は、前年度末に実施したカリキュラムに関する卒業生への悉皆調査を解析し、企画委員会にパイロット版を報告しました。また、入試改革に向けたデータを解析し、来年度以降の入試制度の改変に寄与しました。そして、2021年の12月にWFME Global Standardsに基づいた医学教育分野別評価の2巡目を受審いたしましたが、そこではIRに関する課題をご指摘頂いたので、その改善に向けて来年度は取り組んでいきたいと思っています。

沿 革

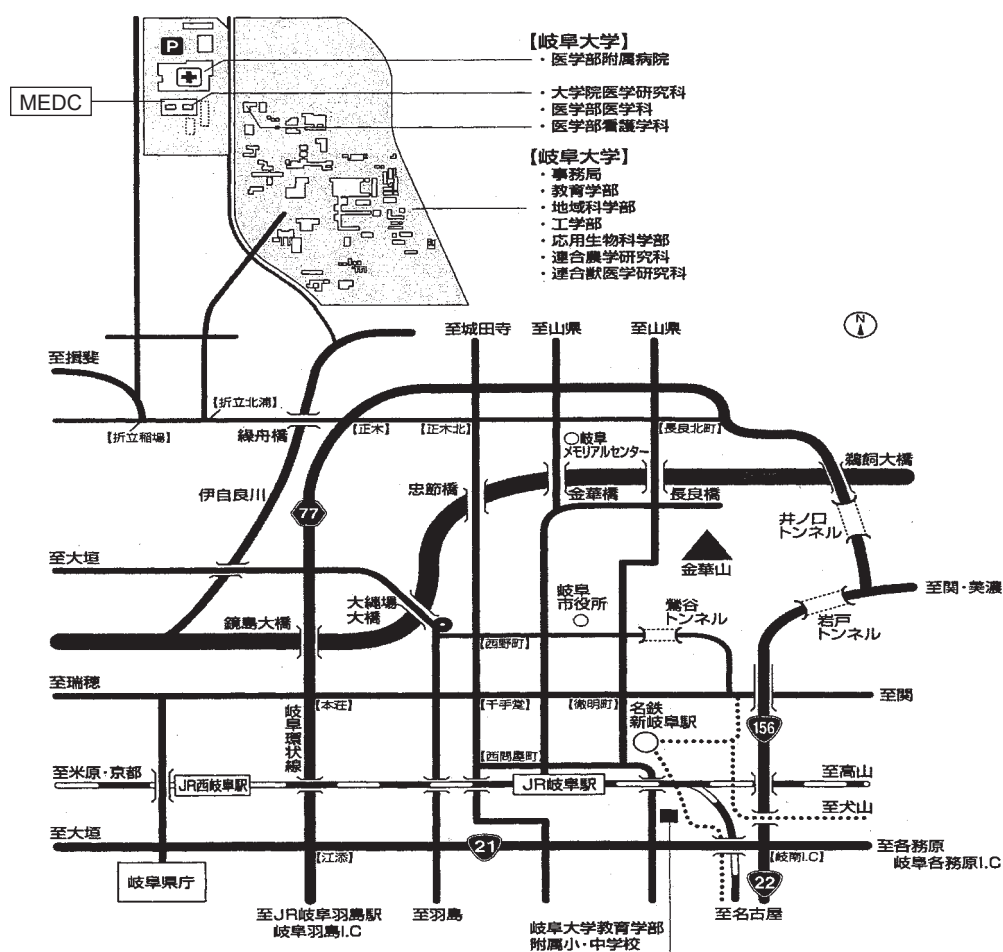
西 暦	医学教育開発研究センター	医学教育と社会背景
2000.3. 2000.9.15-17 2000.12.22	第1回医学教育セミナーとワークショップ 第2回医学教育セミナーとワークショップ 医学教育開発研究センター 設置認可	医学教育学会 尾島昭次会長 32回医学教育学会（東北大） 東京大学医学教育国際協力研究センター開設
2001 2001.5.29 2001.8.27-30 2001.11.8-10	医学教育開発研究センター開設 客員教授 Chirasak Khamboonruang 先生招聘 記念式典・基調講演・祝賀会（岐阜ルネサンスホテル） 第3回医学教育セミナーとワークショップ 第2回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	33回医学教育学会（東海大） 医学教育モデル・コア・カリキュラム策定 アメリカ同時多発テロ
2002 2002.5.24-26 2002.8.26-28 2002.11.12-14 2002.11.16-17	知的クラスター創成事業受託 客員教授 Gregg Colvin 先生招聘 スタッフ海外研修（メルボルン大学、シドニー病院視察） スタッフ海外研修（マーストリヒト大学視察） 第4回医学教育セミナーとワークショップ 第5回医学教育セミナーとワークショップ 第3回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第6回医学教育セミナーとワークショップ	34回医学教育学会（昭和大学） 東京医科歯科大学医歯学教育システム 研究センター開設 FIFA ワールドカップ
2003 2003.1.25-26 2003.5.23-25 2003.7.31-8.2 2003.10.25-26 2003.11.12-14	特色ある大学教育支援プログラム（文科省）「能動・思考促進型 を柱とする全人的医学教育」採択 客員教授 Jutty Ramesh 先生招聘 第7回医学教育セミナーとワークショップ（久留米大） 第8回医学教育セミナーとワークショップ 第9回医学教育セミナーとワークショップ 第10回医学教育セミナーとワークショップ（近畿大） 第4回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	医学教育学会 齋藤宣彦会長 35回医学教育学会（佐賀医大） SARS
2004 2004.1.31 2004.5.22-23 2004.8.5-7 2004.10.23-24 2004.11.24-26	客員教授 Ratanavadee Nanagara 先生招聘 第11回医学教育セミナーとワークショップ 第12回医学教育セミナーとワークショップ（藤田医科大） 第13回医学教育セミナーとワークショップ 第14回医学教育セミナーとワークショップ 第5回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	36回医学教育学会（高知大） 新医師臨床研修制度施行 医療系大学間共用試験実施評価機構 岐阜大学医学部・附属病院移転 スマトラ島沖地震・大津波
2005 2005.1.29-30 2005.4.23-24 2005.8.26-28 2005.11.5-6 2005.11.28-30	スタッフ海外研修（ハーバード大学） 第15回医学教育セミナーとワークショップ（慈恵医大） 第16回医学教育セミナーとワークショップ（金沢医大） 第17回医学教育セミナーとワークショップ 第18回医学教育セミナーとワークショップ（岩手医大） 第6回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	37回医学教育学会（東京大） 共用試験 CBT/OSCE 正式実施 中部国際空港（セントレア）開港 愛知万博
2006 2006.1.28-29 2006.4.22-23 2006.8.25-27 2006.10.28-29 2006.11.27-29	客員教授 Phillip Evans 先生招聘 スタッフ海外研修（スコットランド） 第19回医学教育セミナーとワークショップ 第20回医学教育セミナーとワークショップ（筑波大） 第21回医学教育セミナーとワークショップ 第22回医学教育セミナーとワークショップ（横浜市大） 第7回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	38回医学教育学会（奈良医大） 人口減少社会に突入 医療崩壊問題

西 暦	医学教育開発研究センター	医学教育と社会背景
2008 2008.1.12-13 2008.5.10-11 2008.6.7 2008.8.4-6 2008.10.25-26 2008.12.3-5	医学教育学博士課程開講 客員教授 Jan-Joost Rethans 先生招聘 第 27 回医学教育セミナーとワークショップ (名城大) 第 28 回医学教育セミナーとワークショップ (大阪医大) 岐阜大学模擬患者の会 10 周年シンポジウム 第 29 回医学教育セミナーとワークショップ 第 30 回医学教育セミナーとワークショップ (日本医大) 第 9 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	40 回医学教育学会 (東京医大) 医学部定員増・地域枠入試導入 リーマンショック 後期高齢者医療制度
2009 2009.1.24-25 2009.5.16-17 2009.8.7-9 2009.10.28-30 2009.11.14-15	現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム (文科省)「臨床医学教育を強化向上させる ICT」採択 客員教授 Jennifer Cleland 先生招聘 スタッフ海外研修 (グラスゴー大学 OSCE 視察) 第 31 回医学教育セミナーとワークショップ 第 32 回医学教育セミナーとワークショップ (慶應義塾大) 第 33 回医学教育セミナーとワークショップ 第 10 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 34 回医学教育セミナーとワークショップ (札幌医大)	医学教育学会 伴信太郎理事長 41 回医学教育学会 (近畿大) 新型インフルエンザパンデミック
2010 2010.1.23-24 2010.5.22-23 2010.8.27-29 2010.10.27-29 2010.11.6-7 2010.12.21	教育関係共同利用拠点認定 (第 1 期) 客員教授 Peter Baton 先生招聘 客員教授 Phillip Evans 先生招聘 アフガニスタン医学教育研修受入 スタッフ研修 (スコットランド医学教育視察) 第 35 回医学教育セミナーとワークショップ 第 36 回医学教育セミナーとワークショップ (東邦大) 第 37 回医学教育セミナーとワークショップ 第 11 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 38 回医学教育セミナーとワークショップ (名古屋大) 10 周年外部評価	42 回医学教育学会 (日本医大) ECFMG 通告 (2023 年問題) 小惑星探査機はやぶさ帰還
2011 2011.1.22-23 2011.5.14-15 2011.6.1-3 2011.8.5-7 2011.11.19-20	医学教育開発研究センター開設 10 周年 客員教授 劉 克明先生招聘 外部評価 第 39 回医学教育セミナーとワークショップ (広島大) 第 40 回記念医学教育セミナーとワークショップ・10 周年記念式典 第 12 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 41 回医学教育セミナーとワークショップ 第 42 回医学教育セミナーとワークショップ (千葉大)	43 回医学教育学会 (広島大) 医学教育モデル・コア・カリキュラム改定 東日本大震災・福島第一原発事故 FIFA 女子ワールドカップ
2012 2012.1.28-29 2012.5.26-27 2012.6.6-8 2012.8.17-19 2012.10.26-28	客員教授 Farhan Bhanji 先生招聘 スタッフ研修 (マギル大学医学教育視察) 第 43 回医学教育セミナーとワークショップ 第 44 回医学教育セミナーとワークショップ (福島医大) 第 13 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 45 回医学教育セミナーとワークショップ 第 46 回医学教育セミナーとワークショップ	44 回医学教育学会 (慶應義塾大) MERS 山中教授ノーベル賞
2013 2013.1.25 2013.1.26-27 2013.5.8-10 2013.6.8-9 2013.8.9-10 2013.11.1-3	スタッフ研修 (グラスゴー大学、エジンバラ大学) 第 47 回プレカンファレンス (WFME スタンド)ード) 第 47 回医学教育セミナーとワークショップ (琉球大) 第 14 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 48 回医学教育セミナーとワークショップ (京都大) 第 49 回医学教育セミナーとワークショップ 第 50 回記念医学教育セミナーとワークショップ	45 回医学教育学会 (千葉大) 医学教育分野別評価トライアル開始

西 暦	医学教育開発研究センター	医学教育と社会背景
2014 2014.1.27-28 2014.5.13-15 2014.5.24-25 2014.8.8-10 2014.8.27-30 2014.10.18-19 2014.10.27-31 2014.12.5	客員教授 Susan Bridges 先生招聘 特任教授 Phillip Evans 先生招聘 Trevor Gibbs 先生招聘 第 51 回医学教育セミナーとワークショップ（東京医科歯科大） 第 15 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 52 回医学教育セミナーとワークショップ（秋田大） 第 53 回医学教育セミナーとワークショップ スタッフ研修（ヘルシンキ大学） 第 54 回医学教育セミナーとワークショップ（九州大） 第 1 回岐阜県内臨床研修病院指導医のための実践的研修 “Teaching in the Clinical Setting”（マギル大） 大学改革シンポジウム「地域・市民とともに育てる医療人」	46 回医学教育学会（和歌山医大） 日本専門医機構設立 医学教育専門家制度発足 デング熱 御嶽山噴火
2015 2015.1.31-2.1 2015.5.13-15 2015.6.6-7 2015.8.7-9 2015.10.17-18 2015.11.2-6	教育関係共同利用拠点認定（第 2 期） フェローシップ・アソシエイト制度開始 客員教授 Daisy Rotzoll 先生招聘 医学教育賞牛場賞（高橋優三） 医学教育賞日野原賞（鈴木康之） 第 55 回医学教育セミナーとワークショップ 第 16 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 56 回医学教育セミナーとワークショップ（埼玉医大） フェローシッププログラム：メドギフト 2015 開催 第 57 回医学教育セミナーとワークショップ 第 58 回医学教育セミナーとワークショップ（香川大） 第 2 回岐阜県内臨床研修病院指導医のための実践的研修 “Teaching in the Clinical Setting”（マギル大）	47 回医学教育学会（新潟大） 岐阜大学医学教育分野別評価トライアル受審 大村教授ノーベル賞
2016 2016.1.23-24 2016.5.11-13 2016.5.21-22 2016.8.19-21 2016.10.22-23	客員教授 Yvonne Steinert 先生招聘 第 59 回医学教育セミナーとワークショップ 第 17 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 60 回医学教育セミナーとワークショップ（東京医大） フェローシッププログラム：メドギフト 2016 開催 第 61 回医学教育セミナーとワークショップ 第 62 回医学教育セミナーとワークショップ（兵庫医大）	医学教育学会 鈴木康之理事長 48 回医学教育学会（大阪医大） 東北医科薬科大学医学部新設 熊本地震
2017 2017.1.27-29 2017.5.10-12 2017.4.22-23 2017.7.21-23 2017.10.14-15 2017.10.23-27	客員教授 Linda Snell 先生招聘 第 63 回医学教育セミナーとワークショップ 第 18 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 64 回医学教育セミナーとワークショップ（昭和医大） 第 65 回医学教育セミナーとワークショップ フェローシッププログラム：メドギフト 2017 開催 第 66 回医学教育セミナーとワークショップ（岡山大） 第 3 回岐阜県内臨床研修病院指導医のための実践的研修 “Teaching in the Clinical Setting”（マギル大）	49 回医学教育学会（札幌医大） 日本医学教育評価機構設立 岐阜大学医学教育分野別評価認定 医学教育モデル・コア・カリキュラム改定 Post-CC OSCE トライアル開始 国際医療福祉大学医学部新設
2018 2018.1.27-28 2018.6.1-3 2018.6.2-3 2018.8.18-19 2018.11.3-4	客員教授 Joyce Pickering 先生招聘 第 67 回医学教育セミナーとワークショップ（早稲田大） 第 19 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 68 回医学教育セミナーとワークショップ（第 6 回日本シミュレーション医療教育学会併催） フェローシッププログラム：メドギフト 2017 開催 第 69 回医学教育セミナーとワークショップ（信州大） 第 70 回医学教育セミナーとワークショップ（自治医科大）	50 回医学教育学会（東京医科歯科大） 医師国家試験問題 400 問へ 医行為に関する研究班（門田班） 本庶教授ノーベル賞 新専門医制度施行 医学部不適切入試問題

西 暦	医学教育開発研究センター	医学教育と社会背景
2019 2019.1.25-27 2019.5.24-26 2019.5.25-26 2019.7.28 2019.8.9-10 2019.8.29-31 2019.10.12-13 2019.10.28-11.1	医療者教育学専攻修士課程認可（文科省設置審） Jennifer Cleland 先生招聘 第 71 回医学教育セミナーとワークショップ 第 20 回国公私立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 72 回医学教育セミナーとワークショップ フェローシッププログラム：メドギフト 2019 開催 セミナー「格差時代の医学部入学を考える」 第 73 回医学教育セミナーとワークショップ（愛知学院大） スタッフ研修（ライプツィヒ大学） 第 74 回医学教育セミナーとワークショップ（国際医療福祉大） （台風により中止） 第 4 回岐阜県内臨床研修病院指導医のための実践的研修 Teaching in the Clinical Setting（マギル大）	51 回医学教育学会（京都府立医大） 平成から令和へ 働き方改革 ラグビーW 杯
2020 2020.1.25-26 2020.5.22-24 2020.5.23-24 2020.10.2-4	医療者教育学専攻修士課程開講 教育関係共同利用拠点認定（第3期） フェローシッププログラム：メドギフト 2020 開催 第 75 回医学教育セミナーとワークショップ 第 21 回国公私立医学部・歯学部教務事務職員研修（COVID-19 パンデミックにより中止） 第 76 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） 第 77 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ）	医学教育学会 小西靖彦理事長 52 回医学教育学会（鹿児島大） COVID-19 パンデミック 東海国立大学機構設立 はやぶさ 2 帰還 東京オリンピック延期
2021 2021.1.22-23 2021.5.21-23 2021.11.13-14	医学教育開発研究センター20周年 フェローシッププログラム：メドギフト 2021 開催 第 78 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） 第 79 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） 第 22 回国公私立医学部・歯学部教務事務職員研修（ウェブ） 第 3 期拠点事業教職協働スターキット開講 第 80 回医学教育セミナーとワークショップ（with 聖隷浜松病院）	53 回医学教育学会（自治医大） COVID-19 パンデミック 新型コロナウイルス ワクチン接種開始 東京オリンピック開催 医学教育分野別評価 2 巡目受審
2022 2022.1.22-23 2022.3.18 2022.3.25	第 81 回医学教育セミナーとワークショップ（ウェブ） MEDTaalk プラス：『さまざまな「学習・学修できない」と、その支援』 医療者教育学修士一期生卒業	北京オリンピック開催 ロシア ウクライナ侵攻

岐阜市内地図



医学教育開発研究センター 2021年度年報

発行 令和4年5月

編集

医学教育共同利用拠点

岐阜大学 医学教育開発研究センター

〒501-1194 岐阜市柳戸 1-1

Medical Education Development Center (MEDC), Gifu University

Yanagido 1-1, Gifu 501-1194, JAPAN

TEL: +81 58 230 6470 FAX: +81 58 230 6468 E-mail: medc@gifu-u.ac.jp

Homepage: <https://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/>

発行所 株式会社ダイキュー

〒503-2215 岐阜県大垣市赤坂大門3丁目61-1

